

令和元年度決算について

交 通 局

(自動車事業—決算第 17 号議案, 高速鉄道事業—決算第 18 号議案)

I. 事業報告	1
II. 決算の概要について	3
III. 令和元年度 主要事業について	
1. 新規事業	20
2. 継続事業	
①. 安全で信頼される公共交通	24
②. まちづくりや地域社会への貢献	30
③. 「市民の足」であり続けるための経営基盤強化	31
IV. 「神戸市営交通事業 経営計画 2020」の取組状況	35
V. 参考資料	44
VI. 令和元年度決算に基づく資金不足比率の報告について	54

I 事業報告

自動車事業

1 概 況

本市自動車事業は、昭和5年9月の事業開始以来、市民の日常生活や経済活動に必要な生活基盤としての役割を担い、その整備・充実に努めてきた。しかしながら、社会経済環境の変化に伴い、乗客数は減少傾向をたどり、現在においても厳しい財政状況となっている。

一方、急速な少子・超高齢化の進行への対応や、低炭素社会実現に向けた取り組みが求められており、公共交通機関の果たす役割はますます大きなものとなっている。

神戸市交通局では、公営交通としての役割と企業としての経済性の両立を果たすため、これまでも、厳しい経営環境、財政状況の中、「市民の足」を確保し、次世代に求められる「市営交通サービス」の提供を目指して、「神戸市交通事業の経営改革プラン《レボリューション2004》」（平成16年度～18年度）、「神戸市営交通 ステップ・アップ プラン」（平成19年度～22年度）、「神戸市営交通事業 経営計画2015」（平成23年度～27年度）による経営改革を進めてきた。

令和元年度は、平成28年3月に策定した「神戸市営交通事業 経営計画2020」（平成28年度～令和2年度）に基づき、施策の実現に全力で取り組み、また徹底した経営改善を推し進め、安全で信頼できるサービスの提供とこれを支えるしっかりとした経営基盤の確立に取り組んだ。

また、平成30年度より、局採用職員の給与水準を5%カットするとともに、新たに路線の一部委託の拡大を行うなど経費削減に取り組み、高速鉄道事業での人件費カットにより生み出された財源により自動車事業会計に資金手当てを行ったものの、今後、多くのバス車両が更新時期を迎えるうえ、新型コロナウイルス感染症の影響による乗車人員の減少も見込まれることなどから、厳しい経営環境、財政状況にある。これからも多くのお客様に信頼され、安心、満足してご利用いただける市バスであり続けるため、さらなる乗客増対策や経営の効率化に取り組みることにより、財政の健全化に努め、将来にわたり「市民の足」である市営交通としての役割を積極的に果たし、神戸のひとの暮らしとまちの発展を支えていく。

ア 運輸成績

令和元年度の乗車人員は6,595万人（1日平均18万人）、乗車料収入は95億460万円（1日平均2,597万円）となった。

イ 主要事業

令和元年度は、平成31年4月21日に発生した市バス重大事故を受けて、全乗務員に対する外部講師による緊急教育研修や運転マニュアルの策定、営業所ごとの事故の特徴等を分析し、乗務員に指導する事故分析研修等を実施することで乗務員教育の強化を図ったことに加え、衝突警報装置を試験的に設置し、その有効性を検証するなど、ソフト面、ハード面で再発防止にむけた取り組みを行った。

一方で、高齢化が進展する中でも、安心してより快適に市バスをご利用していただけるよう、バス停におけるベンチ・屋根の設置を進めるとともに、厳しい財政状況の中、民間バス事業者等と協働を進めることで、市バスの運行経費を削減しつつ、出来る限りバス路線の維持・充実を図り、「市民の足」の確保に努めた。また、サービスの向上としては、市バス共用区における同伴幼児無料人数の拡大を行った。

ウ 経理状況

収益的収入は乗車料収入の落ち込み等の影響により104億7,848万円となり、平成30年度に比べ8,219万円（0.8%）の減少となった。一方、支出の総額は105億8,592万円となり、平成30年度に比べて150万円（0.01%）の減少となった。

この結果、当年度純損失は1億744万円となり、当年度の未処分利益剰余金は2億5,628万円となった。

高速鉄道事業

1 概 況

(1) 総括事項

本市高速鉄道事業は、昭和52年3月に新長田～名谷間で営業を開始し、昭和62年3月の西神・山手線全線開通により、新神戸～西神中央間22.7キロメートルで営業を行っている。昭和63年4月には、北神急行電鉄（新神戸～谷上間7.5キロメートル）との相互直通運転により、西北神地域と都心部を結ぶ“みどりのUライン”が完成した。また、平成13年7月には、新長田～三宮・花時計前間7.9キロメートルの海岸線が開業し、両線合わせて30.6キロメートルで営業を行っている。

財政状況について、地下鉄事業全体の経常損益としては、平成25年度から7年連続で、黒字を計上した。線別で見ると、西神・山手線は、平成15年度以降、継続して純利益を計上しているが、海岸線は、依然として、減価償却費・企業債利子といった資本費負担が大きく、純損失を計上し、多額の累積欠損金・累積資金不足を抱えている。

一方、急速な高齢化の進行への対応や、低炭素社会実現に向けた取り組みが求められており、公共交通機関の果たす役割はますます大きなものとなっている。

神戸市交通局では、公営交通としての役割と企業としての経済性の両方を果たすために、これまでも、厳しい経営環境、財政状況の中、「市民の足」である市営交通を維持・存続させるため、「神戸市交通事業の経営改革プラン《レボリューション2004》」（平成16年度～18年度）、「神戸市営交通ステップ・アッププラン」（平成19年度～22年度）、「神戸市営交通事業経営計画2015」（平成23年度～27年度）による経営改革を進めてきた。

平成28年度からは、「神戸市営交通事業経営計画2020」（平成28年度～令和2年度）により、「改善型地方公営企業」としてさらなる経営改善とお客サービス向上に取り組んでおり、令和元年度についても、累積欠損金の縮減と海岸線ランニング収支の均衡に向けた収支改善という財政目標について単年度目標額を達成することができた。しかしながら、依然として多額の累積欠損金を抱えており、新型コロナウイルス感染症拡大の影響や、今後車両・設備などの、大規模更新により、多額の修繕費、設備更新費が見込まれるなど、厳しい経営環境、財政状況にあることに変わりはない。

「神戸市営交通事業経営計画2020」の下、さらなる乗客増対策や経営の効率化に取り組むことにより、財政の健全化に努め、将来にわたり「市民の足」である市営交通としての役割を積極的に果たし、神戸のひとの暮らしとまちの発展を支えていく。

ア 運輸成績

令和元年度の西神・山手線の乗車人員は9,537万人（1日平均26.1万人）、乗車料収入は162億8,478万円（1日平均4,449万円）となった。また、海岸線の乗車人員は1,879万人（1日平均5.1万人）、乗車料収入は23億8,952万円（1日平均653万円）となった。その結果、地下鉄全線では、乗車人員は1億1,416万人（1日平均31.2万人）、乗車料収入は186億7,430万円（1日平均5,102万円）となった。

イ 主要事業

子育て世帯の経済的負担の軽減を図る為、令和元年10月1日からの消費税改定にあわせて、地下鉄通学定期券の割引率拡大を実施したほか、令和2年6月1日からの北神急行線の市営化に向けた手続きをすすみ、乗客増対策として「おもちゃ箱列車」などの自主イベントや関係機関とタイアップした各種事業を展開した。

また、西神・山手線において、バリアフリー対応・快適性向上、省エネ性能向上を重視した新造車両を7編成導入するとともに、南海トラフ地震等の大規模災害に備える為、妙法寺駅の耐震改修工事を実施し、海岸線ではホーム上の安全対策強化として、和田岬駅のホーム拡張工事に着手した。

ウ 経理状況

西神・山手線では、48億7,780万円の純利益を計上しているが、海岸線では、33億7,249万円の純損失を計上している。この結果、地下鉄全線の純利益は15億531万円となり、令和元年度末の累積欠損金は732億758万円となった。

II 決算の概要について

自動車事業

(単位:百万円、税抜)

		元年度決算	30年度決算	増△減
収益的収支	収入	10,478	10,561	△ 82
	(1日あたり乗客数)	(180,194人)	(183,230人)	(△ 3,036人)
	支出	10,586	10,587	△ 2
経常損益		△ 156	△ 27	△ 129
特別利益		49	0	49
純損益		△ 107	△ 27	△ 80
その他の利益剰余金の処分動				0
累積損益		256	364	△ 107
累積資金過不足		△ 1,718	△ 1,824	106
累積資金不足比率		17.5%	18.3%	-0.8%

1日あたり乗客数の増減
△1.66%

高速鉄道事業

		元年度決算	30年度決算	増△減	
全線	収益的収支	収入	24,353	24,638	△ 285
		(1日あたり乗客数)	(311,919人)	(313,617人)	(△ 1,698人)
	支出	22,848	22,380	468	
	経常損益		1,505	2,258	△ 753
	純損益		1,505	2,258	△ 753
	累積損益		△ 73,208	△ 74,713	1,505
累積資金過不足		7,345	4,654	2,691	
西神・山手線	収益的収支	収入	19,313	19,578	△ 265
		(1日あたり乗客数)	(260,567人)	(263,381人)	(△ 2,814人)
	支出	14,435	13,548	887	
	経常損益		4,878	6,030	△ 1,152
	純損益		4,878	6,030	△ 1,152
	累積損益		30,277	25,399	4,878
累積資金過不足		51,047	43,168	7,879	
海岸線	収益的収支	収入	5,040	5,060	△ 20
		(1日あたり乗客数)	(51,352人)	(50,236人)	(1,116人)
	支出	8,413	8,832	△ 419	
	経常損益		△ 3,373	△ 3,772	399
	純損益		△ 3,373	△ 3,772	399
	累積損益		△ 103,485	△ 100,112	△ 3,373
累積資金過不足		△ 43,702	△ 38,514	△ 5,188	

1日あたり乗客数の増減
△0.54%

1日あたり乗客数の増減
△1.07%

1日あたり乗客数の増減
+2.22%

○自動車事業会計における令和元年度決算の収支状況

1. 乗車人員の状況

【1日あたり乗客数の推移】			
	(H30)		(R1)
・定期	64,896	→	64,114 (△782)
・定期外	62,610	→	60,317 (△2,293)
・敬老パス	35,933	→	36,329 (+396)
・福祉パス	19,791	→	19,434 (△357)
合計	183,230	→	180,194 (△3,036)

※うち、新型コロナウイルス感染症拡大の影響：約2,400人

2. 収支の状況

(税抜、単位：百万円)

	H30年度	R1年度	差額	主な要因
収入	10,560	10,478	△ 82	
営業収入	9,962	9,774	△ 188	
乗車料収入	7,862	7,689	△ 173	新型コロナの影響による減収
営業外収入	598	656	58	
一般会計補助金	539	576	37	経営改善促進補助金の増
特別利益	0	49	49	
支出	10,588	10,586	△ 2	
営業費用	10,438	10,429	△ 9	
人件費	3,616	3,667	51	退職給付引当金の増
燃料費	795	780	△ 15	
営業所委託料	4,275	4,310	35	中央南営業所の通年化等
減価償却費	200	140	△ 60	
営業外費用	150	157	7	
営業損益	△ 476	△ 655	△ 179	
経常損益	△ 27	△ 157	△ 130	
純損益	△ 27	△ 107	△ 80	
資金不足額	△ 1,824	△ 1,718	106	
資金不足比率	18.3%	17.5%	-0.8%	

※資金手当として、

- ・新型コロナによる減収見込みへの補填として、基金取り崩しを実施（160百万円）
- ・車両整備工場の土地の一部を売却（125百万円）
- ・高速鉄道事業会計からの出資（145百万円）

○高速鉄道事業会計における令和元年度決算の収支状況

1. 乗車人員の状況

《全線》【1日あたり乗客数の推移】		
	(H30)	(R1)
・定期	168,394	→ 169,831 (+ 1,437)
・定期外	106,883	→ 103,242 (- 3,641)
・敬老パス	20,475	→ 21,110 (+ 635)
・福祉パス	17,865	→ 17,736 (- 129)
合計	313,617	→ 311,919 (- 1,698)

《山》【1日あたり乗客数の推移】		
	(H30)	(R1)
・定期	142,439	→ 142,633 (+ 194)
・定期外	88,873	→ 85,453 (- 3,420)
・敬老パス	17,558	→ 18,090 (+ 532)
・福祉パス	14,511	→ 14,391 (- 120)
合計	263,381	→ 260,567 (- 2,814)

《海》【1日あたり乗客数の推移】		
	(H30)	(R1)
・定期	25,955	→ 27,198 (+ 1,243)
・定期外	18,010	→ 17,789 (- 221)
・敬老パス	2,916	→ 3,020 (+ 104)
・福祉パス	3,354	→ 3,345 (- 9)
合計	50,236	→ 51,352 (+ 1,116)

※うち、新型コロナウイルス感染症拡大の影響：約3,800人

西神・山手線：3,200人、海岸線：600人

2. 収支の状況（全線）

（税抜、単位：百万円）

	H30年度	R1年度	差額	主な要因
収入	24,638	24,353	△ 285	
営業収入	21,010	20,827	△ 183	
乗車料収入	17,377	17,153	△ 224	新型コロナの影響による減収
営業外収入	3,628	3,526	△ 102	長期前受金戻入
支出	22,380	22,848	468	
営業費用	19,522	20,183	661	
人件費	6,000	6,215	215	退職給付引当金の増
固定資産除去費	264	595	331	新型車両導入に伴う廃車等費用の増
動力費	699	633	△ 66	
減価償却費	8,382	8,342	△ 40	
営業外費用	2,858	2,665	△ 193	企業債利子の減
営業損益	1,488	644	△ 844	
経常損益	2,258	1,505	△ 753	
純損益	2,258	1,505	△ 753	
累積資金過不足額	4,654	7,345	2,691	

2-1. 収支の状況（西神・山手線）

（税抜、単位：百万円）

	H30年度	R1年度	差額	主な要因
収入	19,578	19,313	△ 265	
営業収入	18,498	18,247	△ 251	
乗車料収入	15,285	15,010	△ 275	新型コロナの影響による減収
営業外収入	1,080	1,066	△ 14	長期前受金戻入
支出	13,548	14,435	887	
営業費用	12,681	13,618	937	
人件費	4,835	5,003	168	退職給付引当金の増
固定資産除去費	135	576	441	新型車両導入に伴う廃車等費用の増
動力費	546	515	△ 31	
減価償却費	4,356	4,573	217	
営業外費用	867	817	△ 50	企業債利子の減
営業損益	5,817	4,629	△ 1,188	
経常損益	6,030	4,878	△ 1,152	
純損益	6,030	4,878	△ 1,152	
累積資金過不足額	43,168	51,047	7,879	

2-2. 収支の状況（海岸線）

（税抜、単位：百万円）

	H30年度	R1年度	差額	主な要因
収入	5,060	5,040	△ 20	
営業収入	2,512	2,580	68	定期利用の増
乗車料収入	2,092	2,143	51	
営業外収入	2,548	2,460	△ 88	長期前受金戻入
支出	8,832	8,413	△ 419	
営業費用	6,841	6,565	△ 276	
人件費	1,165	1,212	47	退職給付引当金の増
固定資産除去費	130	20	△ 110	新型車両導入に伴う廃車等費用の増
修繕費	457	499	42	
減価償却費	4,026	3,770	△ 256	
営業外費用	1,991	1,848	△ 143	企業債利子の減
営業損益	△ 4,329	△ 3,985	344	
経常損益	△ 3,772	△ 3,373	399	
純損益	△ 3,772	△ 3,373	399	
累積資金過不足額	△ 38,515	△ 43,702	△ 5,187	

※海岸線ランニング収支：△215百万円（前年度比+88百万円）

新型コロナウイルス感染拡大による経営への影響

1. 新型コロナウイルス感染症による経営への影響

○対前年度比乗車人員

		4月	5月	6月	7月
市バス	I C 定期	△47%	△58%	△25%	△23%
	定期外	△56%	△54%	△27%	△23%
	敬老・福祉	△47%	△44%	△24%	△22%
	計	△52%	△51%	△25%	△23%
地下鉄	定期	△47%	△58%	△28%	△17%
	定期外	△64%	△63%	△33%	△30%
	敬老・福祉	△58%	△57%	△30%	△24%
	計	△56%	△60%	△30%	△24%

※市バスの乗車人員は磁気定期を除く（料金箱データによる利用者）

※地下鉄の乗車人員は改札機通過者数

2. 減収見込み額（R2年7月決算見込み）

自動車事業会計 約16億円（R2年度乗車料収入予算 約87億円／年）

高速鉄道事業会計 約41億円（R2年度乗車料収入予算 約184億円／年）

※今後も通勤定期・定期外利用が△15%減少で推移した場合

3. R2年度収支見通し

自動車事業会計 △17億円（資金不足比率 △19.8%）（※）

高速鉄道事業会計 △46億円（資金不足比率 — ）

※特別減収対策企業債の発行により資金不足額は拡大しない見込み

（公営企業における新型コロナウイルス感染症に伴う減収により資金不足額が拡大した金額が企業債発行の対象）

自動車事業会計

1. 業務量

業務の種別	元 年 度 業 務 実 績 A	30 年 度 業 務 実 績 B	実 績 増 減		
			A-B(C)	率 C/B	
営業キロ程 (km)	376.00	374.80	1.2	0.3	
在籍車両数 (両)	515	514	1	0.2	
運転車両数 (両)	161,575	160,514	1,061	0.7	
運転走行キロ (千km)	17,350	17,261	89	0.5	
乗車人員 (千人)	65,951	66,879	△927	△1.4	
乗車料収入 (千円)	9,504,599	9,694,072	△189,473	△2.0	
営業日数 (日)	366	365	1	0.3	
一 日 平 均	運転車両数 (両)	441	440	1	0.2
	運転走行キロ (km)	47,404	47,290	114	0.2
	乗車人員 (人)	180,194	183,230	△3,036	△1.7
	乗車料収入 (千円)	25,969	26,559	△590	△2.2

※乗車人員・乗車料収入は敬老福祉パスを含む

※乗車料収入は税抜

<参 考>

1. 敬老・福祉乗車等負担金

(単位:千円)

	28年度決算	29年度決算	30年度決算	元年度決算
敬 老 パ ス	2,112,288	2,121,256	2,122,648	2,123,821
敬老利用者負担額	779,473	800,680	814,079	825,313
敬老パス負担金	1,332,815	1,320,576	1,308,569	1,298,508
福 祉 パ ス 等 負 担 金	539,730	534,524	523,130	517,518
合 計	2,652,018	2,655,780	2,645,778	2,641,339

2. 1日あたりの乗客数の推移

(単位:人)

	28年度決算	29年度決算	30年度決算	元年度決算
有料乗車	131,675	130,648	127,506	124,431
敬老パス	34,887	35,593	35,933	36,329
福祉パス等	20,693	20,522	19,791	19,434
合 計	187,255	186,763	183,230	180,194

2. 経営成績

(単位:百万円、税抜)

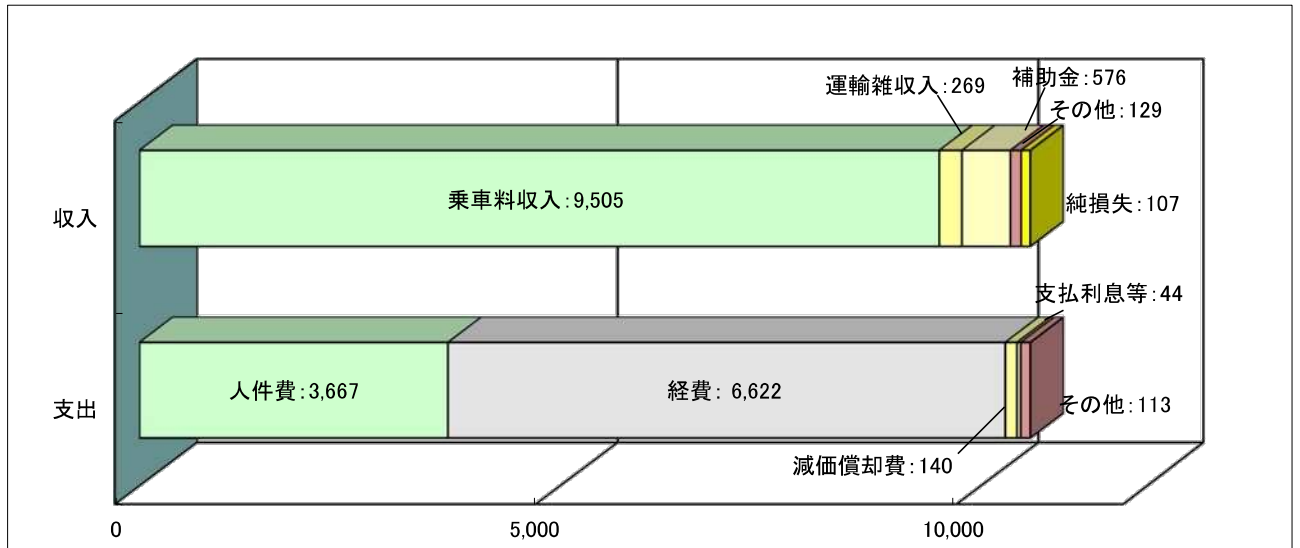
(単位:百万円、税抜)

区 分		元年度決算 a	30年度決算 b	比較増減 a - b	伸び率(%) (a-b)/b	主な増減理由
収 益 的 収 支	営 業 収 益	9,774	9,962	△ 189	△1.9	
	運 輸 収 入	7,689	7,862	△ 174	△2.2	
	定期・定期外	6,863	7,048	△ 185	△2.6	定期外収入の減
	敬老利用者負担	825	814	11	1.4	
	敬 老 福 祉 パス	1,816	1,832	△ 16	△0.9	
	敬老パス負担金	1,299	1,309	△ 10	△0.8	
	福祉パス等負担金	518	523	△ 5	△1.0	
	そ の 他	269	268	1	0.4	
	営 業 外 収 益	656	598	58	9.7	
	一 般 会 計 補 助 金	576	539	37	6.9	経営改善促進補助金の増
	長 期 前 受 金 戻 入	23	18	5	27.8	
	そ の 他	57	41	16	39.0	
	特 別 利 益	49	-	49	皆増	車両工場用地一部売却
	計	10,478	10,561	△ 82	△0.8	
	営 業 費 用	10,429	10,438	△ 9	△0.1	
	人 件 費	3,667	3,616	50	1.4	給与の減、退職給付引当金の増
	経 費	6,622	6,622	-	-	委託費の増、燃料油脂費の減
減 価 償 却 費	140	200	△ 59	△29.5	減価償却の進行にともなう減	
営 業 外 費 用	157	150	7	4.7		
支 払 利 息 及 び 諸 費	44	42	1	2.4		
そ の 他	113	107	6	5.6		
計	10,586	10,587	△ 2	△0.0		
経 常 損 益	△ 156	△ 27	△ 129	△477.8		
純 損 益	△ 107	△ 27	△ 81	△300.0		
累 積 損 益	256	364	△ 107	△29.4		
資 本 的 収 支	企 業 債	788	105	683	650.5	建設改良費の増
	他 会 計 繰 入 金	305	177	129	72.9	
	財 産 収 入	78	-	78	皆増	車両工場用地一部売却の簿価分
	そ の 他	1	1	-	-	
	計	1,172	283	889	314.1	
	建 設 改 良 費	791	143	648	453.1	車両更新
	企 業 債 償 還 金	218	255	△ 38	△14.9	
	資 本 費 平 準 化 債 償 還 金	53	53	-	-	
	投 資	1	1	-	-	新車購入にかかるリサイクル料
	計	1,062	451	610	135.3	
収 支 差 引	110	△ 168	279	166.1		
累 積 資 金 過 不 足	△ 1,718	△ 1,824	106	5.8		

*資本的収支は税込

<参考>

①経営状況 令和元年度決算



※ 乗車料収入には、敬老福祉パス負担金を含む

②職員数

(単位:人)

	2年度 予算	元年度 (A)	30年度 (B)	増△減 (A-B)
損益勘定	376	377	378	△ 1
事務	79	80	81	△ 1
技術	22	22	22	0
技士	16	16	16	0
運転士	259	259	259	0
合計	376	377	378	△ 1

④経営指標

	2年度 予算	元年度 (A)	30年度 (B)	増△減 (A-B)
営業係数	108	107	105	1

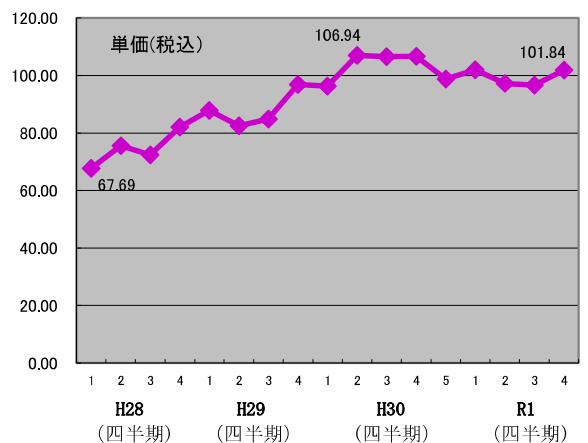
③企業債残高

(単位:百万円)

	2年度 予算	元年度 (A)	30年度 (B)	増△減 (A-B)
年度当初残高	3,029	2,512	2,715	△ 203
償還額	253	271	308	△ 37
借入額	2,265	788	105	683
年度末残高	5,041	3,029	2,512	517

⑤軽油価格

(円/ℓ、税込)



30年度	第1四半期	7月	8月	9月～12月	第4四半期
	96.25	106.94	106.51	106.62	98.74
元年度	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	
	101.98	97.22	96.56	101.84	

貸借対照表

自動車事業会計

借 方		貸 方	
科 目	金 額	科 目	金 額
	千円		千円
固 定 資 産	16,067,449	固 定 負 債	6,130,473
自動車運送事業施設	34,877,275	企 業 債	2,775,498
減価償却累計額	△ 19,132,456	建設改良等の財源に充てる ための企業債	2,775,498
計	15,744,819	引 当 金	3,114,371
関 連 施 設	160,322	退職給付引当金	3,114,371
減価償却累計額	△ 109,761	そ の 他 固 定 負 債	240,604
計	50,561	流 動 負 債	4,040,059
建 設 仮 勘 定	245,439	一 時 借 入 金	1,100,000
投 資	26,630	企 業 債	253,157
流 動 資 産	2,069,206	建設改良等の財源に充てる ための企業債	253,157
現 金 預 金	507,987	未 払 金	1,311,979
未 収 金	1,549,598	前 受 金	876,783
貯 蔵 品	5,461	預 り 金	181,275
前 払 費 用	6,160	引 当 金	238,715
		賞 与 引 当 金	200,330
		法定福利費引当金	38,385
		そ の 他 流 動 負 債	78,150
		繰 延 収 益	228,381
		長 期 前 受 金	2,484,603
		収 益 化 累 計 額	△ 2,256,222
		資 本 金	4,390,909
		自 己 資 本 金	4,390,909
		剰 余 金	3,346,833
		資 本 剰 余 金	3,090,553
		受 贈 財 産 評 価 額	955,810
		他 会 計 繰 入 金	2,134,743
		利 益 剰 余 金	256,280
		未 処 分 利 益 剰 余 金	256,280
合 計	18,136,655	合 計	18,136,655

高速鉄道事業会計

1. 業務量

(1) 西神・山手線

業務の種類別	元年度 業務実績A	30年度 業務実績B	実績増減		
			A-B (C)	率 C/B	
営業キロ程(km)	22.7	22.7	-	-	
在籍車両数(両)	174	174	-	-	
運転車両数(両)	59,046	60,048	△ 1,002	△ 1.7	
運転走行キロ(千km)	16,779	16,753	26	0.2	
乗車人員(千人)	95,367	96,134	△ 767	△ 0.8	
乗車料収入(千円)	16,284,779	16,551,134	△ 266,355	△ 1.6	
営業日数(日)	366	365	1	0.3	
一日平均	運転車両数(両)	162	165	△ 3	△ 1.8
	運転走行キロ(km)	45,846	45,898	△ 52	△ 0.1
	乗車人員(人)	260,567	263,381	△ 2,814	△ 1.1
	乗車料収入(千円)	44,494	45,346	△ 852	△ 1.9

(2) 海岸線

業務の種類別	元年度 業務実績A	30年度 業務実績B	実績増減		
			A-B (C)	率 C/B	
営業キロ程(km)	7.9	7.9	-	-	
在籍車両数(両)	40	40	-	-	
運転車両数(両)	11,484	11,324	160	1.4	
運転走行キロ(千km)	2,702	2,682	20	0.7	
乗車人員(千人)	18,795	18,336	459	2.5	
乗車料収入(千円)	2,389,517	2,334,331	55,186	2.4	
営業日数(日)	366	365	1	0.3	
一日平均	運転車両数(両)	31	31	-	-
	運転走行キロ(km)	7,381	7,348	33	0.4
	乗車人員(人)	51,352	50,236	1,116	2.2
	乗車料収入(千円)	6,529	6,395	134	2.1

* 乗車人員・乗車料収入は敬老福祉パスを含む

* 乗車料収入は税抜

2-1. 経営成績【全線】

(単位:百万円、税抜)

区 分		元年度決算 a	30年度決算 b	比較増減 a - b	伸び率(%) (a-b)/b	主な増減理由		
収 入 的	収 入	営 業 収 益	20,827	21,010	△ 183	△0.9		
		運 輸 収 入	17,153	17,377	△ 224	△1.3		
			定期・定期外	16,456	16,699	△ 243	△1.5	定期外収入の減
			敬老利用者負担	697	678	19	2.8	
		敬 老 福 祉 パ ス	1,521	1,509	12	0.8		
			敬老バス負担金	939	935	4	0.4	
			福祉バス等負担金	582	574	8	1.4	
		そ の 他	2,153	2,124	29	1.4	付帯事業収入等の増	
		営 業 外 収 益	3,526	3,628	△ 102	△2.8		
	一般会計補助金		1,322	1,345	△ 23	△1.7	特例債元金補助金の減	
	長期前受金戻入		2,166	2,248	△ 82	△3.6		
	そ の 他		38	35	3	8.6		
	計	24,353	24,638	△ 285	△1.2			
支 出	営 業 費 用	20,183	19,522	661	3.4			
		人 件 費	6,215	6,000	215	3.6	退職給付引当金の増	
		経 費	5,626	5,140	486	9.5	固定資産除却費の増	
	減 価 償 却 費	8,342	8,382	△ 40	△0.5			
	営 業 外 費 用	2,665	2,858	△ 193	△6.8			
		支払利息及び諸費	2,620	2,820	△ 200	△7.1	企業債利子の減	
	そ の 他	45	38	7	18.4			
	特 別 損 失	-	-	-	-			
	計	22,848	22,380	468	2.1			
経 常 損 益	1,505	2,258	△ 753	△33.3				
純 損 益	1,505	2,258	△ 753	△33.3				
累 積 損 益	△ 73,208	△ 74,713	1,505	2.0				
資 本 的	収 入	企 業 債	11,019	7,821	3,198	40.9	建設債の増	
		補 助 金	2,750	2,671	79	3.0		
		そ の 他	2,642	1,656	986	59.5	出資金の増	
	計	16,411	12,148	4,263	35.1			
	支 出	建 設 改 良 費	11,578	6,960	4,618	66.4	車両更新	
		企 業 債 償 還 金	10,896	10,678	218	2.0		
		そ の 他	334	621	△ 287	△46.2	投資の減	
	計	22,808	18,259	4,549	24.9			
収 支 差 引	△ 6,397	△ 6,111	△ 286	△4.7				
累 積 資 金 過 不 足	7,345	4,654	2,691	57.8				

※資本的収支は税込

2-2. 経営成績【線別】

(単位:百万円、税抜)

区 分		西 神 ・ 山 手 線			海 岸 線				
		元年度決算	30年度決算	比 較	元年度決算	30年度決算	比 較		
的 収 入	営 業 収 益	営 業 収 益	18,247	18,498	△ 251	2,580	2,512	68	
		運 輸 収 入	15,010	15,285	△ 275	2,143	2,092	51	
		敬 老 福 祉 パ ス	1,274	1,267	7	247	242	5	
		そ の 他	1,963	1,946	17	190	178	12	
	営 業 外 収 益	営 業 外 収 益	1,066	1,080	△ 14	2,460	2,548	△ 88	
		一 般 会 計 補 助 金	498	578	△ 80	824	767	57	
		長 期 前 受 金 戻 入	538	474	64	1,628	1,774	△ 146	
		そ の 他	30	28	2	8	7	1	
	計		19,313	19,578	△ 265	5,040	5,060	△ 20	
	的 収 支	営 業 費 用	営 業 費 用	13,618	12,681	937	6,565	6,841	△ 276
			人 件 費	5,003	4,835	168	1,212	1,165	47
			経 費	4,043	3,490	553	1,583	1,650	△ 67
			減 価 償 却 費	4,572	4,356	216	3,770	4,026	△ 256
		営 業 外 費 用	営 業 外 費 用	817	867	△ 50	1,848	1,991	△ 143
支 払 利 息 及 諸 費			778	832	△ 54	1,842	1,988	△ 146	
そ の 他			39	35	4	6	3	3	
特 別 損 失		-	-	-	-	-	-		
計		14,435	13,548	887	8,413	8,832	△ 419		
経 常 損 益		4,878	6,030	△ 1,152	△ 3,373	△ 3,772	399		
純 損 益		4,878	6,030	△ 1,152	△ 3,373	△ 3,772	399		
累 積 損 益		30,277	25,399	4,878	△ 103,485	△ 100,112	△ 3,373		
的 資 本 収 支	資 本 収 入	企 業 債	8,162	5,078	3,084	2,857	2,743	114	
		補 助 金	186	48	138	2,564	2,623	△ 59	
		そ の 他	2,439	1,468	971	203	188	15	
	計		10,787	6,594	4,193	5,624	5,554	70	
	資 本 支 出	建 設 改 良 費	10,429	5,890	4,539	1,149	1,070	79	
		企 業 債 償 還 金	2,616	2,665	△ 49	8,280	8,013	267	
		そ の 他	188	621	△ 433	146	-	-	
計		13,233	9,176	4,057	9,575	9,083	492		
収 支 差 引		△ 2,446	△ 2,582	136	△ 3,951	△ 3,529	△ 422		
累 積 資 金 過 不 足		51,047	43,168	7,879	△ 43,702	△ 38,514	△ 5,188		

※資本的収支は税込

海岸線ランニング収支:△215百万円

<参考>

1. 敬老・福祉乗車等負担金

(単位:千円/税抜)

		28年度決算	29年度決算	30年度決算	元年度決算
	西神・山手線	794,434	801,544	812,247	816,327
		海岸線	116,130	122,359	122,183
	敬老パス	910,564	923,903	934,430	939,291
	西神・山手線	449,561	449,952	454,045	458,389
		海岸線	96,635	102,885	105,436
	福祉パス等	546,196	552,837	559,481	565,428
	敬老・福祉乗車等負担金 計	1,456,760	1,476,740	1,493,911	1,504,719
	西神・山手線	556,829	586,264	612,446	630,275
		海岸線	58,376	63,843	65,576
	敬老優待乗車 利用者負担額	615,205	650,107	678,022	697,331
合 計	2,071,965	2,126,847	2,171,933	2,202,050	

2. 1日あたりの乗客数の推移

(単位:人)

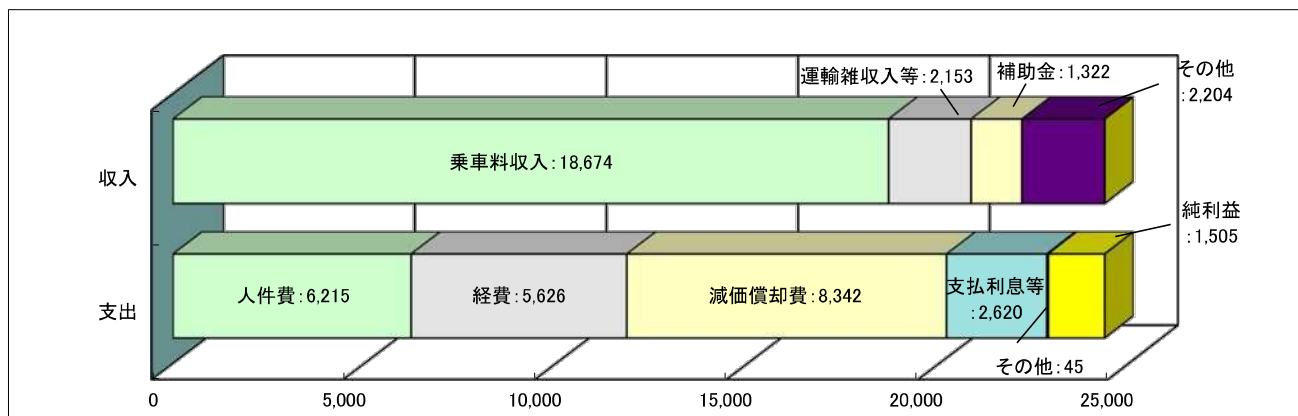
		28年度決算	29年度決算	30年度決算	元年度決算
	西神・山手線	231,637	232,195	231,312	228,086
	海岸線	39,890	42,486	43,965	44,987
有料乗車	271,527	274,681	275,277	273,073	
敬老パス	西神・山手線	15,386	16,830	17,558	18,090
	海岸線	2,461	2,838	2,917	3,020
敬老パス	17,847	19,668	20,475	21,110	
福祉パス等	西神・山手線	14,472	14,551	14,511	14,391
	海岸線	3,100	3,319	3,354	3,345
福祉パス等	17,572	17,870	17,865	17,736	
西神・山手線 計	261,495	263,576	263,381	260,567	
海岸線 計	45,451	48,643	50,236	51,352	
合 計	306,946	312,219	313,617	311,919	

<参考>

①経営状況 令和元年度決算

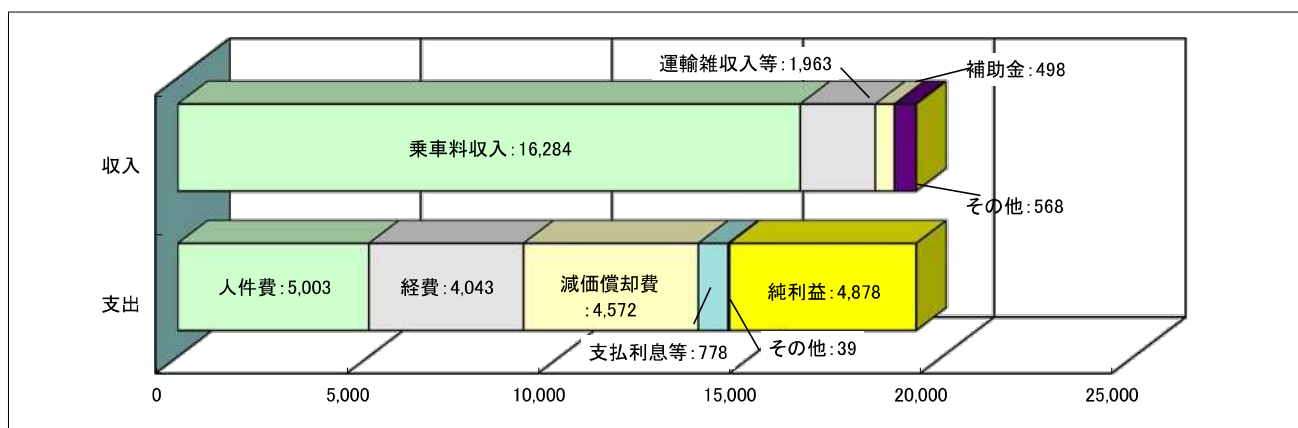
【全線】

(単位:百万円、税抜)

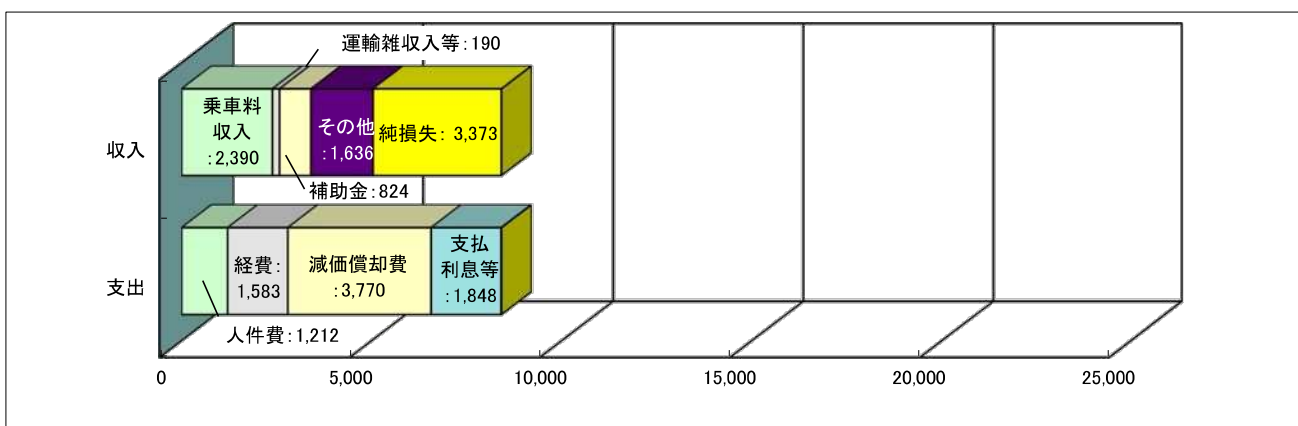


【線別】

(西神・山手線)



(海岸線)



※ 乗車料収入には、敬老福祉バス負担金を含む

②職員数

(単位:人)

	2年度 予算	元年度 (A)	30年度 (B)	増△減 (A-B)
損益勘定	605	603	602	1
事務	196	196	201	△5
技術	107	105	99	6
技士	75	75	75	-
運転士	118	118	118	-
車掌	55	55	55	-
駅掌	54	54	54	-
資本勘定	13	13	13	-
合計	618	616	615	1

③企業債残高

(単位:百万円)

	2年度 予算	元年度 (A)	30年度 (B)	増△減 (A-B)
年度当初残高	156,789	156,667	159,524	△ 2,857
償還額	11,318	10,897	10,678	219
借入額	28,347	11,019	7,821	3,198
年度末残高	173,818	156,789	156,667	122

④経営指標

(単位:%)

	2年度 予算	元年度 (A)	30年度 (B)	増△減 (A-B)
経常収支比率	98.2%	106.6%	110.1%	△3.5%

貸借対照表

高速鉄道事業会計

借 方		貸 方	
科 目	金 額	科 目	金 額
	千円		千円
固 定 資 産	239,727,509	固 定 負 債	154,130,411
運送施設有形固定資産	499,134,636	企 業 債	145,470,533
減 価 償 却 累 計 額	△ 269,084,995	退 職 給 付 引 当 金	6,020,696
運送施設建設仮勘定	2,574,004	そ の 他 固 定 負 債	2,639,182
計	232,623,645	流 動 負 債	18,802,096
付帯事業有形固定資産	13,997,054	企 業 債	11,318,229
減 価 償 却 累 計 額	△ 10,598,683	未 払 金	5,217,860
付帯事業建設仮勘定	23,425	前 受 金	1,639,902
計	3,421,796	預 り 金	193,259
運送施設無形固定資産	43,406	賞 与 引 当 金	354,227
投 資	3,638,662	法 定 福 利 費 引 当 金	67,147
流 動 資 産	14,851,219	そ の 他 流 動 負 債	11,472
現 金 預 金	9,676,293	繰 延 収 益	49,730,285
未 収 金	5,035,960	長 期 前 受 金	123,932,698
貯 蔵 品	138,377	収 益 化 累 計 額	△ 74,202,413
前 払 費 用	589	資 本 金	90,158,900
		自 己 資 本 金	90,158,900
		自 己 資 本 金	145,900
		他 会 計 出 資 金	90,013,000
		剰 余 金	△ 58,242,964
		資 本 剰 余 金	14,964,617
		受 贈 財 産 評 価 額	109,562
		建 設 受 入 寄 付 金	414,519
		建 設 補 助 金	1,609,596
		他 会 計 繰 入 金	10,907,750
		他 会 計 補 助 金	1,753,298
		そ の 他 剰 余 金	169,892
		利 益 剰 余 金	△ 73,207,581
		当 年 度 未 処 分 利 益 剰 余 金	△ 73,207,581
合 計	254,578,728	合 計	254,578,728

Ⅲ 令和元年度 主要事業について

～新規拡充事業～

1. 子育て世帯の経済的負担の軽減

1. 地下鉄通学定期割引率の拡大・「大学生」「中学生・高校生」区分の新設

(1)事業概要

市内の民間鉄道事業者と比較して低い割引率になっている地下鉄通学定期券の割引率について、消費税率改定にあわせて、新たに「大学生」「中学生・高校生」の区分を設け、割引率を拡大した。消費税率改定後の定期料金から「大学生」については5%、「中学生・高校生」については「大学生」からさらに5%（トータル約10%）の値下げを実施することで、子育て世帯の経済的負担の軽減を図るとともに、地下鉄の利用を促進した。

(2)事業内容

- ①実施時期：令和元年10月1日
- ②対象路線：地下鉄全線
- ③実施内容：通学定期券「大学生」「中学生・高校生」区分の新設
 - ・「大学生」：消費税率改定後の定期料金から△5%
 - ・「中学生・高校生」：「大学生」からさらに△5%
(消費税率改定後の定期料金からトータル△約10%)

<地下鉄通学定期券割引率拡大・区分新設後の定期旅客運賃>

◆定期旅客運賃(通学定期1箇月・大学生、中学生・高校生)

区間	通学定期（大学生）			通学定期（中学生・高校生）		
	改定前	改定後	差額	改定前	改定後	差額
1区	4,940円	4,780円	-160円	4,940円	4,550円	-390円
2区	5,680円	5,500円	-180円	5,680円	5,230円	-450円
3区	6,420円	6,210円	-210円	6,420円	5,900円	-520円
4区	7,410円	7,170円	-240円	7,410円	6,820円	-590円
5区	8,150円	7,890円	-260円	8,150円	7,500円	-650円
6区	8,890円	8,600円	-290円	8,890円	8,170円	-720円
7区	9,630円	9,310円	-320円	9,630円	8,850円	-780円
8区	10,370円	10,040円	-330円	10,370円	9,540円	-830円
9区	11,110円	10,750円	-360円	11,110円	10,220円	-890円

※通学定期（小児）は通学定期（大学生）の半額（10円未満端数切り上げ）

< 「大学生」「中学生・高校生」区分の発売実績（令和元年10月1日～令和2年3月31日） >

	発売枚数	発売金額 (千円) … A	割引前単価による見 込額 (千円) … B	A - B (千円)
大学	23,688 (60.8%)	381,596 (56.8%)	401,680	△20,084
高校	13,876 (35.6%)	256,670 (38.2%)	284,399	△27,729
中学	1,408 (3.6%)	33,380 (5.0%)	36,986	△3,606
計	38,972	671,646	723,958	△51,419

< 定期券の券面 >

(大学生)

(高校生)

(中学生)



2. 市バス共用区における同伴幼児無料人数の拡大

(1) 事業概要

山陽バスと共同運行を行っている市バス共用区と神戸市内を走る山陽バス単独区間において、6歳（小学生）以上1名につき幼児（1歳から未就学の6歳まで）1名まで無料のところ、市バス単独路線、地下鉄と同じ幼児2名まで無料乗車の対象とすることで、子育て世帯の経済的負担の軽減を図った。

(2) 事業内容

- ①実施時期：平成31年4月1日
- ②対象路線：市バス共用区、山陽バス単独区間（神戸市内）
- ③対象者：6歳（小学生）以上の乗客が同伴する幼児（1歳から未就学の6歳まで）
- ④乗車料金：2名まで無料

2. 北神急行線市営化にむけた手続き

人口減少の歯止めと持続可能な鉄道ネットワークの構築を図るため、既存インフラの有効活用である北神急行線の市営化を令和2年6月1日より実施。

令和元年度においては、北神急行線の市営化にむけて、鉄道事業法に基づく手続きをすすめて、併せて自動改札機、窓口処理機、定期券発行機などの駅務機器システムの改修を行った。



3. 地下鉄駅舎の美装化

1. 事業概要

人口が集積するまちづくりの観点から核となる駅を目指し、名谷駅については全市の人口減少対策とあわせた駅・駅ビルのリニューアルに向けた検討を行うとともに、西神中央駅においては柱の塗装の塗りなおし、三宮駅においては鉄扉の塗装等を実施した。

2. 実施内容

(1) 名谷駅

- ・全市の人口減少対策と合わせた駅・駅ビルのリニューアルに向けた検討
- ・改札内にベンチを設置し憩い空間を創出

(2) 西神中央駅

- ・コンコースの柱の塗装の塗りなおし等の駅の美装化
- ・エレベーター更新工事の着手

(3) 三宮駅

- ・鉄扉の塗装、券売機前等の照明追加、サイン更新、旧売店撤去による駅の美装化
- ・三宮駅東西改札口連絡通路の改修（令和3年1月初旬完成予定）



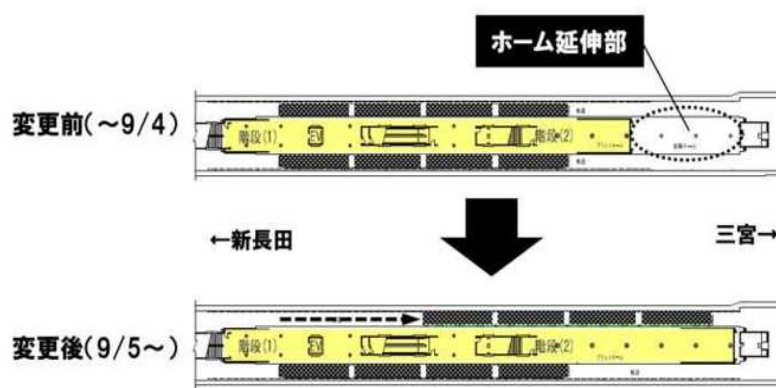
4. 海岸線和田岬駅 ホーム上の安全対策強化

1. 事業概要

海岸線和田岬駅の混雑緩和を目的に、ホーム等の改修工事を行った。具体的には、1番線の列車停止位置を現在よりも三宮・花時計前駅寄りに変更するためのホームの拡張工事等を実施した。

2. 工事時期

令和元～2年度（令和2年9月5日より供用開始）



～その他事業～

1. 安全で信頼される公共交通

1-1. 安全性の強化

(1) 運輸安全マネジメントによる安全性の向上

輸送の安全に向けた基本方針や重点施策、計画などを定めた市バス・地下鉄の「安全管理規程」を平成18年10月に制定し、その運用を通じ安全運行に努めている。

令和元年度は、4月の市バスの重大事故により失った信頼を回復していくため、全職員が安全方針への理解を深め、安全最優先の意識をもって業務に従事するよう、あらゆる機会を捉え徹底を図った。

その他、安全マネジメントの運用をさらに実効性あるものにするため、ヒヤリ・ハット情報の収集・活用、各種の訓練や研修の実施、内部監査の実施など安全管理体制の強化を図った。

(2) 市バス事故を受けた対策

平成31年4月21日に発生した重大事故は、市バスに対する市民やお客様の信頼を瞬時に瓦解させた、多大な社会的影響を生じたものであることを改めて認識し、総力を挙げて再発防止策を推進したとともに、信頼回復とより高次の安全実現に向け、あらゆる対策を行った。

〈ソフト面での取り組み〉

1. 緊急乗務員教育訓練

全乗務員に対し、基本動作の徹底および運輸の安全の向上について、外部講師を招聘し、教育研修を実施。

期間：5月16日～7月10日

参加人数：794人（委託先含む、うち直営は260人）

外部講師：公益財団法人 関西交通経済研究センター

運輸安全マネジメント支援センター 水谷 邦宏 主任研究員 他

2. 運転マニュアルの作成

ヒューマンエラーを前提にした「運転マニュアル」を策定し、同マニュアルに基づいて、研修を実施

3. 事故分析研修

営業所毎の事故の特徴や事故多発地点等を分析し、営業所管理職が乗務員に対し指導・教育を実施

期間：令和元年12月～令和2年4月末

参加人数：609名



4. 管理職による立ち番の実施

管理職自らが現場において、立ち番を実施し、運転動作やサービス・マナーを確認することで、より効果的な指導を行っている。



〈ハード面での取り組み〉

1. 衝突警報装置の導入

衝突の危険（車間距離・追突の危険性・歩行者の横断・車線逸脱等）が迫ると、警報音と専用モニターへの表示により運転士に知らせる装置を、市バス中央営業所車両 10 台に設置し、その有効性について検証した。

【警報数の推移】

系 統	2 系統
調査期間	令和元年 11 月 13 日～12 月 23 日
警報減少率	期間前半（11 月 13 日～12 月 3 日）と期間後半（12 月 4 日～12 月 23 日）の比較で、警報数は約 15%減少

〈参考〉

有責事故件数 平成 30 年度 95 件→令和元年度 52 件

(3)地下鉄のさらなる安全・安心運行の推進

安全性の確保は、公共交通機関における輸送の生命であるため、施設や車両機器を計画的に更新し、お客様に安全に安心してご利用いただけるよう平素から全力をあげて事故防止に努めている。令和元年度は駅舎改修、分岐器更新工事、変電所・駅電気室更新工事、及び信号保安・通信設備（運行管理システムや連動装置など）の更新工事などを実施した。

(4)地下鉄西神・山手線 ホームドア設置

駅ホームからの転落や車両との接触事故を防止するため、西神山手線、北神線全 16 駅を一括発注することで、令和 5 年度までに全駅へのホームドアの設置を進める。



【西神・山手線, 北神線 16 駅可動式ホーム柵整備スケジュール】

令和2年 7月	事業者公募開始(総合評価方式による)
令和2年 12月下旬	事業者決定(設計・施工・工事監理の一括発注)
令和3年 1月～	調査・設計業務着手
令和3年度下半期～令和5年度末	順次 16 駅分ホーム柵設置予定

(5)西神・山手線 新造車両の導入

西神・山手線車両の全 28 編成の更新を行う。既に契約済みの 28 編成については令和 4 年度までに順次導入する予定で、令和元年度は7編成を導入した。今後の予定として、令和2年度に6編成、3年度に7編成、4年度に6編成をそれぞれ導入していく。

新型車両は既存車に比べ、火災対策の強化、機器の故障時に迅速な対応が可能となる高度な機器監視装置の設置、戸ばさみの際に抜けやすくなる減圧機能付きの乗降扉の設置など安全性を向上させる。また、バリアフリー対応・快適性向上、省エネ性向上にも考慮した仕様とする。



(6)災害対策の強化

建物の耐震改修などの施設整備を行うことで、南海トラフ地震などの大規模災害に備える。

令和元年度は、伊川谷駅の耐震診断を実施したほか、妙法寺駅プラットホーム上屋についての耐震改修工事、各駅に設置しているサインの補強を進めるとともに、海岸線防災設備監視システムの更新を完了した。

また、平成 29 年度から実施している市バス松原営業所の建て替えを進めた。



1-2. 利便性の向上

(1)わかりやすい案内・サインの充実

市バスをより多くの方にもっと便利にお使いいただけるよう、バス情報提供システム「えきバスびじょん。」(西神中央駅、名谷駅設置)、パソコンやスマートフォンから市内の公共交通機関の乗継検索ができる「KOBE 乗継検索」などのサービスを引き続き提供した。

また、バス停や地下鉄駅施設での4ヵ国語表記を進めるとともに、職員への語学研修も実施して、国外からのお客様にもわかりやすい案内ができるようハード、ソフト両面の取組みを進めるほか、令和元年度は、駒ヶ林駅近くにてできる新長田合同庁舎への来庁者に対する案内表示を充実させた。

(2) バスロケーションシステムの提供

パソコンやスマートフォンで、バスの運行状況が確認できる「バスロケーションシステム」のサービスを引き続き提供した。

(3) 市バス料金収受システムの更新と乗車ポイントサービスの検討の実施(別紙参照)

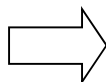
バス料金収受システムの更新にあわせて、令和2年度末から市バスの料金が均一の区間(市バス普通区)においても乗車時にICカードをかざす2タッチ方式に変更することで、停留所ごとの乗降客数を正確に把握し、取得したデータを活用して、さらなるサービスの充実を検討する。

また、磁気定期券・磁気カードについては今後廃止し、現在市バス専用カードをご利用いただいているお客様への代替サービスとして、乗車ポイントシステムを導入する。

さらに、バス車内の停名表示器を更新し、複数先までの停留所名の表示を可能にすることで、市バスのご利用頻度が少ないお客様にとっても、安心して目的地までスムーズにお使いいただけるよう、サービスの充実を図る。



現状



更新後 (イメージ)

1-3. 快適性の向上

(1) 利用者に配慮したバス停・バスターミナルの整備

高齢化社会の進展に伴い、高齢者の方に安心してより快適に市バスを利用していただけるよう、バス停におけるベンチ・上屋の設置を積極的に進めていくとともに、上屋の設置できないバス停におけるバス待ちの環境を改善するため、需要を見つつ置き傘の設置を行った(11か所⇒12か所(2か所新規設置、1か所上屋設置に伴い撤去))。

また、デザイン都市神戸の街並みにふさわしく、いつもきれいで安全なバス停・バスターミナルを目指し、老朽化したバス停・バスターミナル施設の補修に努めている。

1-4. お客様のニーズに応じた取組み

(1) 需要に応じた路線・ダイヤの設定・見直し

バス路線に対する市民要望に応え、路線の新設、変更などを実施するとともに、増便や減便、始終発延長など、効率的なダイヤ編成を引き続き行う。

① 路線新設

系統	新運行区間	内容	備考
89 系統	妙法寺駅前～奥須磨公園口～多井畑厄神～多井畑東町～妙法寺駅前	交通空白地である多井畑東町地域と妙法寺駅をつなぐ新路線の運行を開始	令和元年 12月1日 実施

② 増便・減便等

系統	現行区間	内容	備考
30 系統	JR 甲南山手～阪神深江～東灘高校前～深江浜町西	「深江浜町西」への延伸分（平日のみ）を減便 31本 → 22本 （「深江浜町西」への延伸分 12本 → 3本）	平成 31 年 4月1日 実施
59 系統	垂水駅～星陵台～舞子台～舞子駅前	増便及び終発時刻の延長 18本 → 20本 （往路 18:10 → 18:42） （復路 17:40 → 18:10）	平成 31 年 4月1日 実施
51 系統	舞子駅前～星陵台～県商前～学園都市駅前	「県商前」止まりを減便 48本 → 47本 ※59 系統増便分に振替	平成 31 年 4月1日 実施
73 系統	名谷駅前～北須磨団地～友が丘～妙法寺駅前	減便（土曜日） 184本 → 183本 ※75 系統増便分に振替	平成 31 年 4月1日 実施
75 系統	須磨一の谷～高倉中学校前～高倉台～啓明学院前～妙法寺駅前	増便及び始発時刻繰上げ（土曜日） 194本 → 195本（市バス 169本 → 170本） （高倉中学校前発 6:32 → 6:15） ※神姫バスとの共同運行（神姫バス 25本）	平成 31 年 4月1日 実施

③ 六甲山・摩耶山へのアクセス路線の増便等

系統	新運行区間	内容	備考
六甲摩耶急行バス	三宮駅ターミナル前～地下鉄三宮駅前～新神戸駅前～摩耶ケーブル下～六甲ケーブル下	摩耶山・六甲山に行く観光客の利便性の向上のため、昨年度に引き続き、市街地から摩耶ケーブル下、六甲ケーブル下へ直通で行く路線を、期間を拡大し、平日増便して運行。 （4月20日～11月30日、平土休日：12本）	平成 31 年 4月20日 実施
16 系統	JR 六甲道～阪急六甲～六甲ケーブル下	六甲山へ行く観光客の需要に対応し、かつ、観光客と沿線住民や大学の学生とを分離することにより、利便性を高めるため、新たに鉄道駅と六甲ケーブル下を結ぶ直行便を運行。 （4月20日～11月30日 土休日：8本）	平成 31 年 4月20日 実施

(2) 停留所名称の変更

変更前	変更後
井吹台東町6丁目（2か所）	いぶき東フレア

41系統・46系統の停留所「井吹台東町6丁目」は東西道路に2か所、南北道路に2か所の計4か所存在するが、46系統は時間帯によって循環方向が変わるほか、41系統の往路は東西道路のバス停を通過するなど停留所が複雑になっている。お客様の誤乗車の防止を図るため、東西道路の停留所（2か所）の名称を変更した。

1-5. 質の高いサービスの提供

(1) 接客マナー・安全意識の向上とサービス改善・事故防止

市バスでは、「乗務員研修」や「添乗調査」などを実施するとともに、実際の事故について、ドライブレコーダー等で検証を行った。また、グッドドライバー賞などの優秀な職員への表彰制度を活用し、モチベーションの向上に努めた。

地下鉄では、定期教育訓練や外部講師による応対研修などを実施し、また業務上の危険や事故を未然に防いだ優秀な職員に対して運輸長表彰を行い職員の意識啓発に努めた。

(2) お客様の意見を取り入れた業務改善

市バスの「お客様の声ハガキ」や地下鉄の「メッセージBOX」や地域の集まりなど、あらゆる機会をとらえてお客様の意見を積極的に取り入れ、さらに、「お客様満足度調査」を実施し、サービスの向上と業務改善につなげた。

〈改善事例〉

・市バス事業

① お客様サービス・接客の向上

令和2年度より、外部講師による「接遇研修」を実施するなど、集合研修を強化し、運転士の全体的なレベルアップを図っている。

② バスロケーションシステムの改善

他社バスとのサービス連携として、交通局と交通振興が共同運行している7系統について、交通振興が運行を担当している便はバスロケーションシステム上で確認できないところ、令和3年度上半期中に機器を搭載して同じシステム上で見られるよう、対応を行っている。

・地下鉄事業

① 案内の充実（多言語対応）

訪日外国人等とのコミュニケーションの円滑化を図るため、令和2年4月より、駅員による外国人対応の運用を、映像通訳サービスによる対応から、より実用性の高い74言語対応の双方向通信デバイスを活用した対応に変更し、令和2年9月からは設置駅をさらに4駅追加し計8駅に配置した。また、新造車両の6000形の行先表示・車内案内表示においては、4カ国語表記とするなど多言語化への対応の充実をすすめている。

② 駅構内の快適性の向上

駅構内の快適性と地下鉄駅舎の魅力アップの一環として、平成 30 年度に実施した神戸大学院生との駅前空間の点検調査及び、地元高校生との意見交換会により出された意見をもとに、以前から駅のベンチの増設を要望する利用者からの声なども踏まえ、六甲山材など兵庫県産の木を使用したベンチテーブルを名谷駅改札内に設置した。(R2.7.8)



2. まちづくりや地域社会への貢献

2-1. 総合交通体系における取組み

(1)地下鉄海岸線中学生以下無料化社会実験の継続

既設インフラの有効活用による地域活性化及び、沿線地域への若年世代・子育て世帯の交流・流入・定住促進による乗客増を目的として、平成 29 年 7 月より実施している地下鉄海岸線中学生以下無料化社会実験を、令和元年度も継続して実施し、その効果・影響等の検証を行った。

〈利用者数〉

中学生:64,980 人

小学生:45,008 人 計 109,988 人

(2)ラグビーワールドカップ 2019™ 神戸のまちへの観客誘導

ラグビーワールドカップ 2019™ 神戸開催の 4 試合がノエビアスタジアム神戸で開催されたことから、市営地下鉄や市バス等が乗り放題となる企画乗車券を発売した。また、これと合わせて、先行して平成 30 年度に実施した海岸線車両のラッピングやバスマスクの掲出など PR を進めたほか、市バスではノエビアスタジアム行きバスの車内放送に英語案内を加え、神戸への誘客および公共交通の利用促進を図った。

(参考)

開催期間中における海岸線のご利用者数:約 150,000 人



2-2. 人にやさしい公共交通

(1)市バス低床化 100%に伴う停留所における点字ブロック設置の推進

すべての人が乗り降りしやすいバス車両のバリアフリー化を目指して車両更新を行ってきた結果、平成 24 年度末に、交通バリアフリー法による移動円滑化基準に適合したバス車両による「市バス低床化 100%」を達成しており、これに伴うバス乗車口の中扉化に対応した停留所の点字ブロック設置および位置改修を 2 か所実施した。

(2) 駅施設のユニバーサル対応の推進

ひとにやさしい地下鉄を目指して、多様な利用者のニーズに対応するため、ユニバーサルデザインに配慮した施設の整備を進めていく。令和元年度は、西神・山手線湊川公園駅について、神戸電鉄との乗り換え経路の利便性向上に向けて新たなエレベーター設置に向けた実施設計に着手するとともに、西神・山手線新神戸駅において、新たに改札内下りエスカレーターを設置するための工事に着手した。

2-3. 環境にやさしい公共交通

(1) エコファミリー制度、エコショッピング制度の実施

マイカー利用から公共交通利用への転換を促すため、土・日・祝日、夏季期間などに、大人が同伴する小学生以下の料金を2人まで無料にするエコファミリー制度を引き続き実施した。また、市バスまたは地下鉄を利用して提携した店舗や施設での催し等に出かけていただいたお客様に割引などのサービスを提供するエコショッピング制度を、引き続き実施した。

(2) 省エネルギー対策の推進

照明のLED化

鉄道の省電力化・低炭素化のため、駅・施設の照明設備をLED化する。令和元年度は、海岸線のみなど元町駅等の照明設備のLED化を実施した。

(3) 市バス走行環境の改善

市民の大切な足である市バスの定時運行・安全運行を確保するため、主要なバス停にガードマン・誘導員を配置した。また、市バスの走行環境を守るため従来のバス停表示の先端部分に、視覚的に駐車しにくい形状のゼブラゾーンの設置を県警に要望するなど、違法駐車抑制に取り組んでいる。

3. 「市民の足」であり続けるための経営基盤強化

3-1. 収益力の向上

(1) 乗客増対策の推進

乗客増対策として引き続き交通局自主イベントのほか、沿線地域・関係機関とタイアップした各種事業を積極的に展開した。特に令和元年度は大型のアートプロジェクト「TRANS-」等の開催に合わせて、車両や駅施設などの装飾や企画乗車券の発行などを行い、共同して事業を実施した。

さらに、交通局沿線情報サイト「神戸市交通局沿線 NAVI」やSNSを活用し、これらの取り組みを発信するほか、沿線大学の新入生を対象に市バス・地下鉄のPRを行うことなどで、より効果的な乗客増及び集客増を図った。

○沿線におけるイベントなどの誘致・実施

沿線地域の大規模集客施設や企業・店舗などと連携し、積極的なイベント開催及び誘致を展開した。

○トップスポーツチームとの連携事業の展開

沿線にホームグラウンドをもつトップスポーツチームとタイアップした企画を実施し、乗客増及び集客増に向けた取り組みを行った。

○イオンモールとの連携

イオンモール神戸南と、交通系 IC カードを利用したポイント制度「グリーンスコア」の運用や市バス・地下鉄利用者が専門店等でサービスを受けられるような企画などで、連携を進めた。

○市バス周遊コース等のPR

市バス乗継割引をより多くの市民の方に利用していただけるよう、制度の周知を行ったほか、三宮駅～神戸駅周辺に点在する一宮から八宮の神社を市バスで巡拝する「八社巡り」や北区の国指定重要文化財を巡る「北区重要文化財めぐり」をPRした。



(2) 附帯事業の収入増対策

地下鉄の収益力強化とお客様の利便性向上を目的に、広告事業や、駅構内の空きスペースを有効活用した駅ナカビジネスの推進に努めた。また、令和元年8月に西神そごうの撤退の表明を受けて、後継テナントの誘致に努めた。

令和元年度は、広告料収入の拡大に向けて、地下鉄海岸線において有料広告掲示板を新設した。

3-2. 経営の効率化

市バス営業所の管理委託の継続・拡充

自動車事業における経営改善策として営業所の管理委託を継続した。令和元年度については、平成28年度に実施した提案競技で決定した受託事業者へ管理委託を行った。また、平成30年8月に開設した中央南営業所への路線(2系統)の一部委託の拡大を行った。

委託営業所	受託事業者
魚崎営業所	神戸交通振興(株)
中央南営業所	神姫バス(株)
松原営業所	阪急バス(株)
落合営業所	神姫バス(株)
西神営業所	〃
垂水区内 令和2年11月～	山陽バス(株)

(仮称) 神戸市バス・山陽バス共通乗車ポイントサービス 概要

1. 概要

- ・市バスの乗車方法の見直し（2タッチ化）にあわせ、ICカード（ICOCA（予定））を利用したポイントサービスを導入
- ・ポイントサービスの導入により、現金及び磁気カードからICカードへの転換を促進（廃止する磁気カードの代替サービスとなる）
- ・市バス、山陽バスのどちらのバスに乗車しても、共通のポイントとしてご利用可能なサービスとする。（単独・共同の各路線とも）

2. ポイントサービスの詳細

事前登録をしたICカードを使用して市バス及び山陽バスに乗車する乗客に、1か月の乗車実績に応じたポイントを付与する

1) 利用登録

郵送又は専用Webページより登録（カードIdi、氏名 等）

2) ポイント付与

毎月の利用額に応じて、翌月中頃に下記のポイントを付与

- ・普通ポイント：2,100円/月未満 5%
2,100円/月以上 10%
- ・昼間ポイント（降車時刻が9:30～16:00）
: 2,100円/月未満 15%
2,100円/月以上 30%

※別途、当初の利用促進策として、キャンペーン等において、ボーナスポイント付与等を検討中

3) ポイント利用

降車時に保有ポイントが乗車料金を上回っている場合、自動的にポイントを充当

4) ポイント有効期限

付与後1年間（12か月後の月末に失効）

3. スケジュール

令和3年3月 利用登録開始

4月 ポイントサービスシステム稼働（ポイント積算開始）

5月 ポイント付与・利用開始

経営計画2020の進捗状況

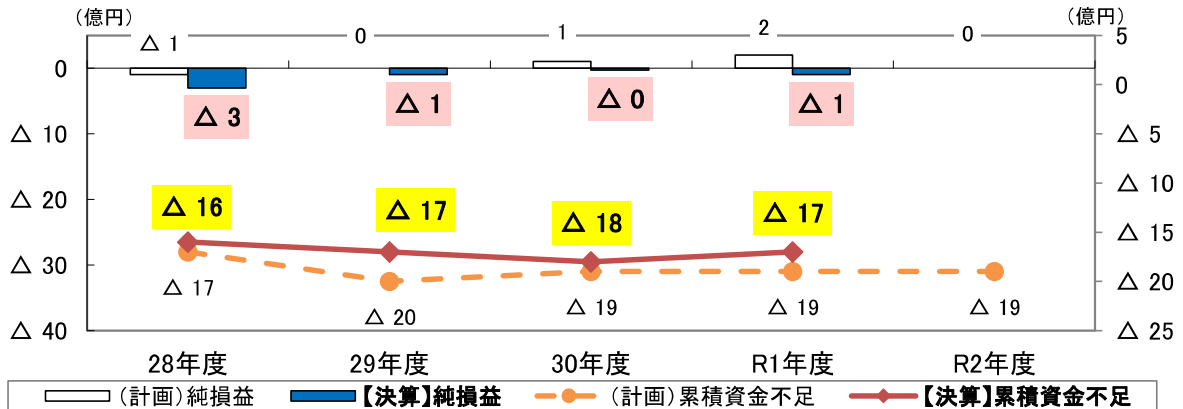
財政目標及びPDCAサイクルによる進行管理

「神戸市営交通事業 経営計画2020」の取り組み状況 <令和元年度>

(1) 財政目標

〔自動車事業〕

①単年度収支の均衡 ②累積資金不足額の縮減
(目標額)5年間の収支改善額累計 21億円



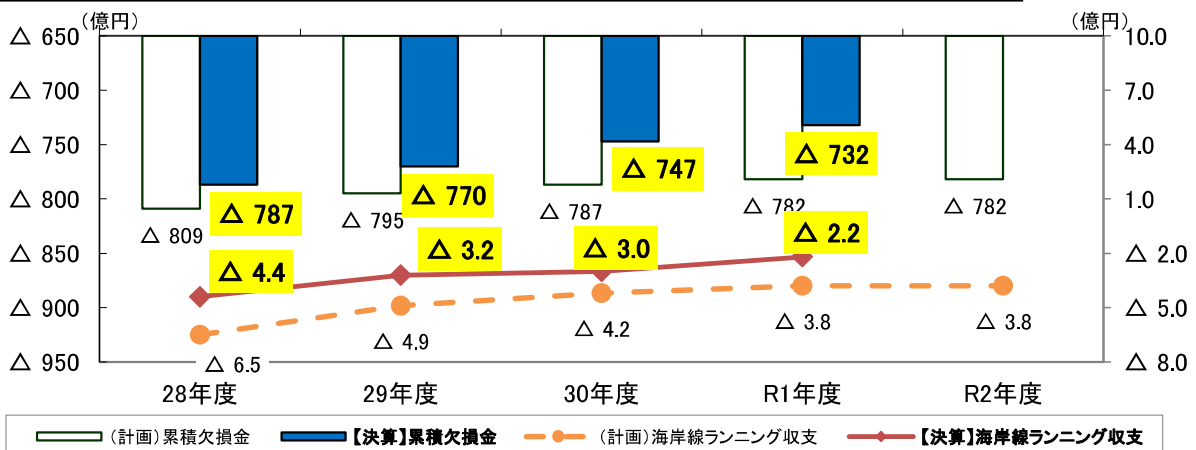
(改善額)

	H28		H29		H30		R1		R2	
	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標
経営の効率化	2.4	2.3	3.5	3.0	5.1	3.1	4.5	4.7		4.7
収益力の向上	△1.7	0.2	△1.7	0.5	△2.4	0.7	△2.8	0.9		1.1
改善額計	0.7	2.5	1.8	3.5	2.7	3.8	1.7	5.6		5.8

純損益は1億円の赤字となり、令和元年度の目標額を下回ったが、累積資金不足額は17億円となり、令和元年度の目標額を達成した。収支改善額は累計で6.9億円となり、目標額を下回った。

〔高速鉄道事業〕

①累積欠損金の縮減 ②海岸線ランニング収支の均衡に向けた収支改善
(目標額)5年間の累積欠損金縮減額累計 17億円



(改善額)

	H28		H29		H30		R1		R2	
	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標
経営の効率化	2.9	1.0	2.4	1.9	4.5	2.9	4.5	3.9		4.7
収益力の向上	2.6	0.1	3.0	0.3	2.4	0.4	2.3	0.5		1.7
改善額計	5.5	1.1	5.4	2.2	6.9	3.3	6.8	4.4		6.4

純損益は15億円の黒字、累積欠損金は732億円、海岸線ランニング収支は2.2億円の赤字となり、令和元年度の目標額を達成した。収支改善額は累計で24.6億円となり、目標額を達成した

(2) 各指標の進捗状況

(1) 安全性の強化

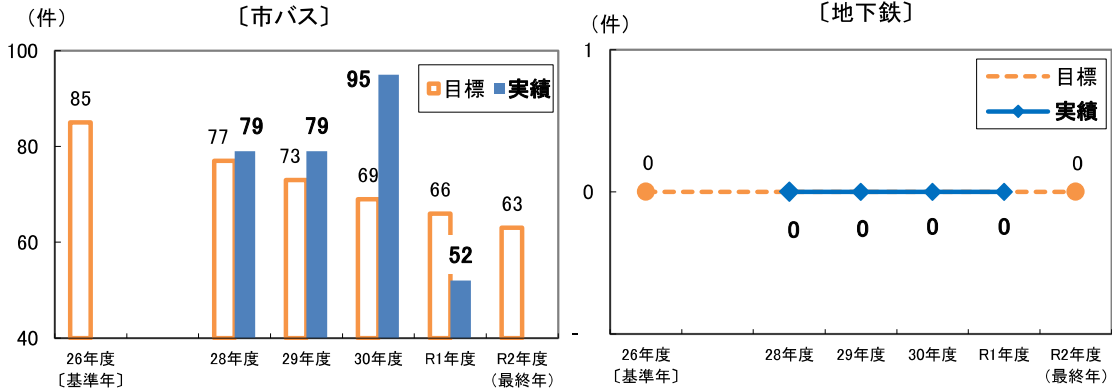
【指標(1) 有責事故件数の削減】

〔市バス〕

・平成26年度目標と比較して毎年5%削減

〔地下鉄〕

・開業以来責任事故ゼロの実績を維持

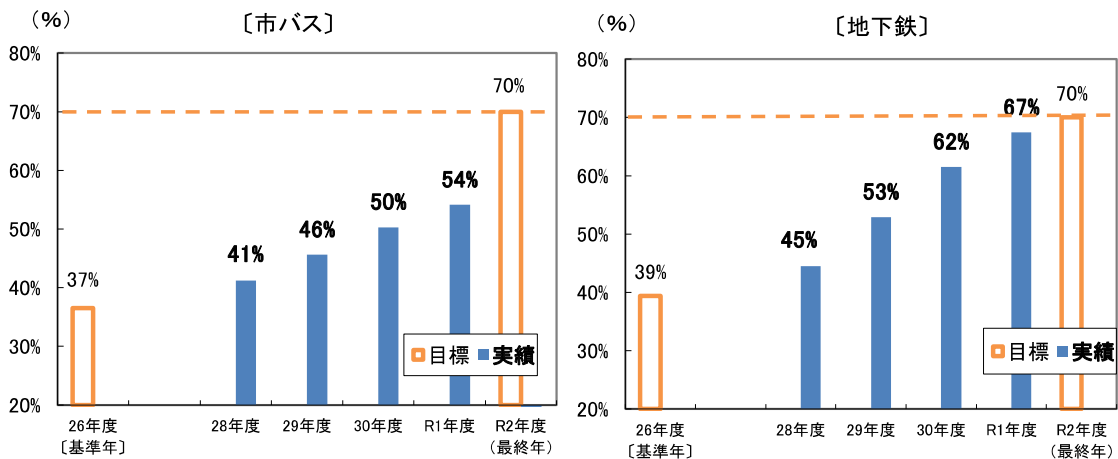


バスの有責事故件数は52件となり、令和元年度の目標を達成した。
地下鉄の有責事故件数は0件であり、開業以来責任事故ゼロの実績を維持した。

(2) 利便性の向上

【指標(2) ICカード利用率の向上】

平成32年度までに、市バス・地下鉄それぞれで乗車人員の70%にする

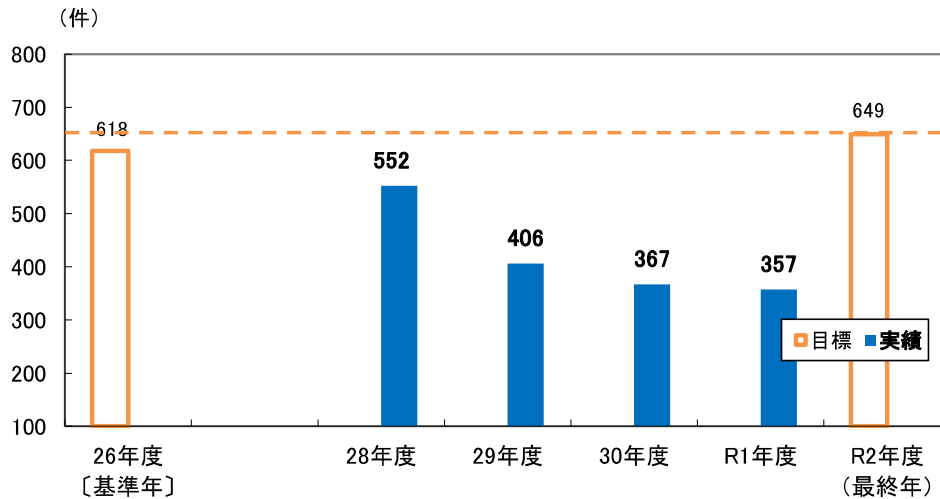


バスのICカード利用率は54%、地下鉄のICカード利用率は67%となり、最終年度の目標に向けて増加した。

(3) 快適性の向上

【指標(3) お客様の声はがき等のお褒めの件数の増加】

平成32年度までに、平成26年度から5%増加させる



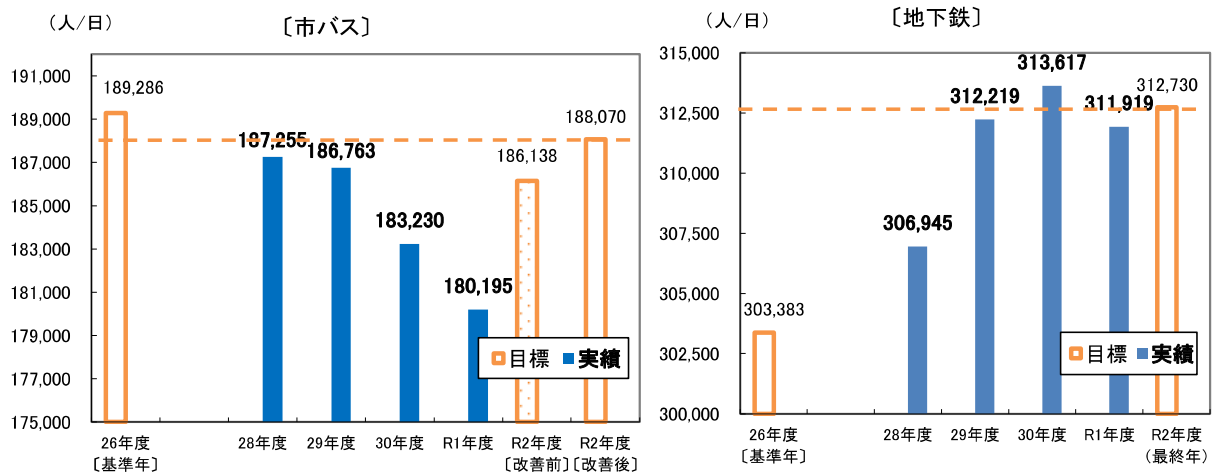
お客様からのお褒めの件数は357件で基準年より減少した。

(4) お客様のニーズに応じた取り組み

【指標(4) 乗車人員の増加】

〔市バス〕
平成32年度までに、改善前見込みから
1%増加させる

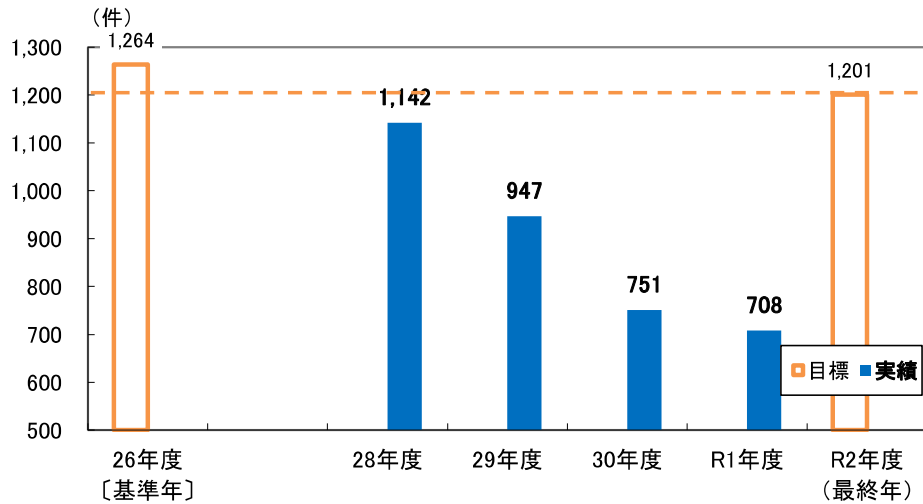
〔地下鉄〕
平成32年度までに、平成26年度から
3%増加させる



バスの乗車人員は1日平均180,195人で基準年より減少した。
地下鉄の乗車人員は1日平均311,919人となり、前年度比で約0.5%の減少となった。

(5) 質の高いサービスの提供

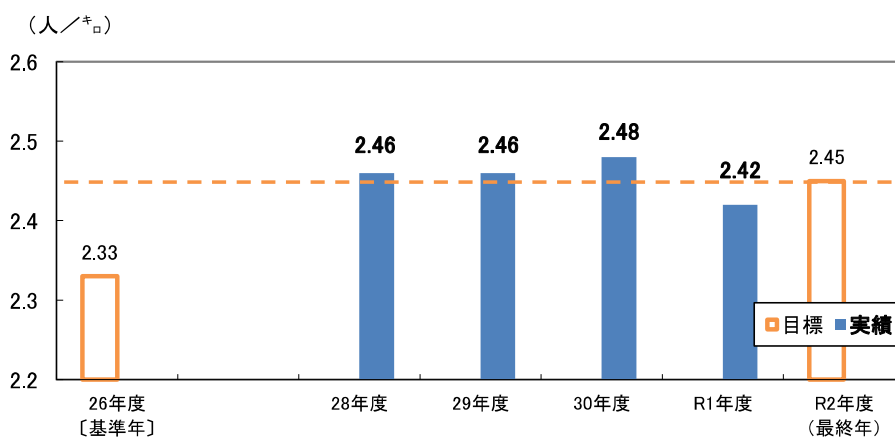
【指標(5) お客様の声はがき等の苦情の件数の減少】
平成32年度までに、平成26年度から5%減少させる



お客様からの苦情の件数は708件となり、最終年度の目標より減少させることができた。

(6) 総合交通体系における取り組み

【指標(6)-1 地域密着型バス路線のキロ当たり乗車人員の増加】
平成32年度までに、平成26年度から5%増加させる



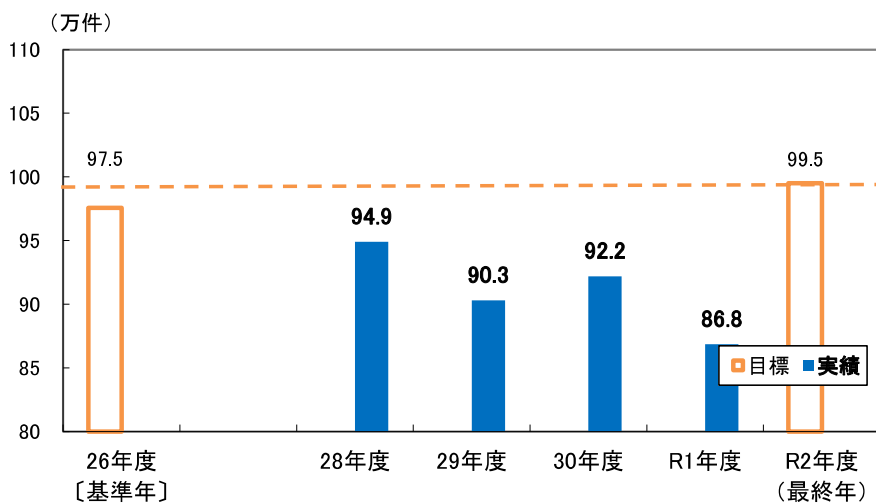
* 対象系統: 7路線(灘南北、26、37、57、83、87、101系統)の合計

地域密着型バス路線のキロ当たり乗車人員は2.42人/キロとなり、昨年度比で約2%の減少となった。

(6) 総合交通体系における取り組み

【指標(6)-2 エコファミリー制度の利用件数の増加】

平成32年度までに、平成26年度から2%増加させる

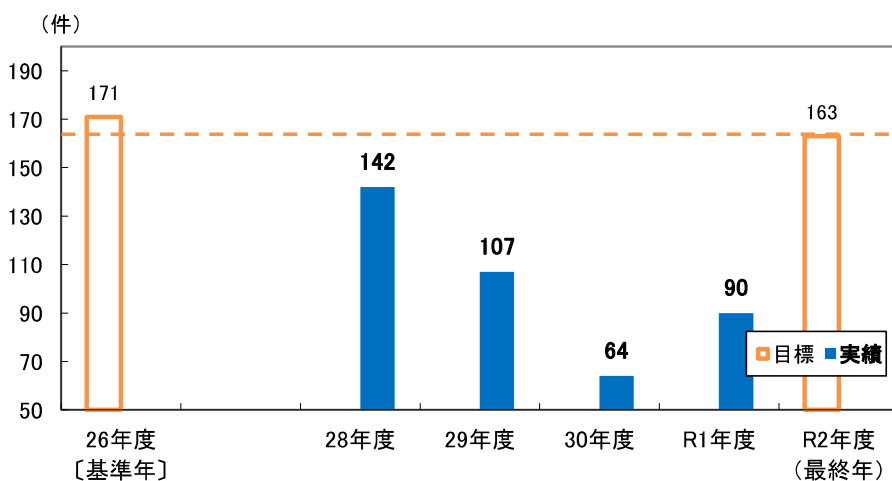


エコファミリー制度の利用件数は86.8万件で基準年より減少した。

(7) 人にやさしい公共交通

【指標(7) バス停や案内表示等への要望の件数の減

平成32年度までに、平成26年度から5%減少させる

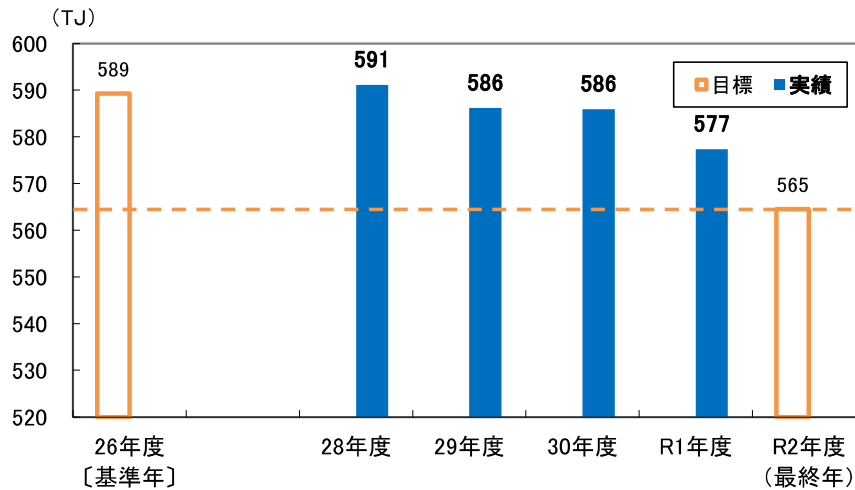


お客様からのバス停や案内表示等への要望の件数は90件となり、最終年度の目標より減少させることができた。

(8) 環境にやさしい公共交通

【指標(8) 最終エネルギー消費量の削減】

神戸市地球温暖化防止実行計画に基づき、平成32年度までに、平成26年度から4%削減する

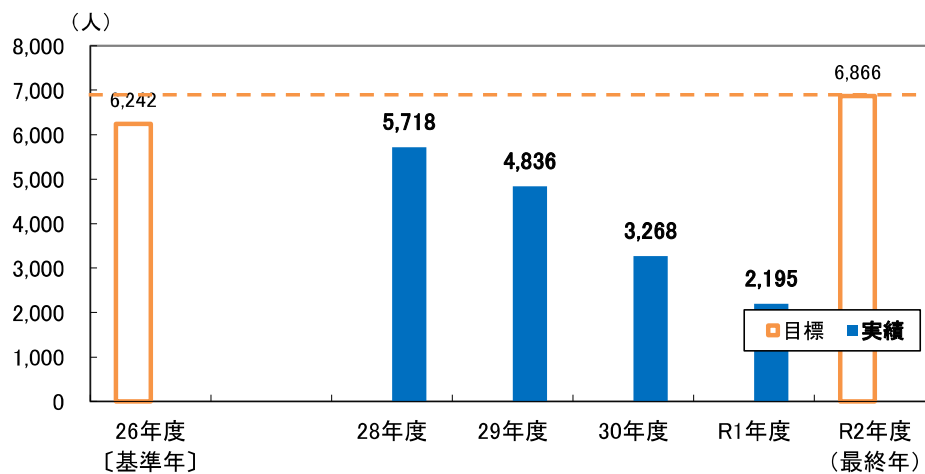


最終エネルギー消費量は577TJ(テラジュール)となり、最終年度の目標に向けて減少させることができた。

(9) 地域との協働

【指標(9) エコショッピング制度参加人数の増加】

平成32年度までに、平成26年度から10%増加させる

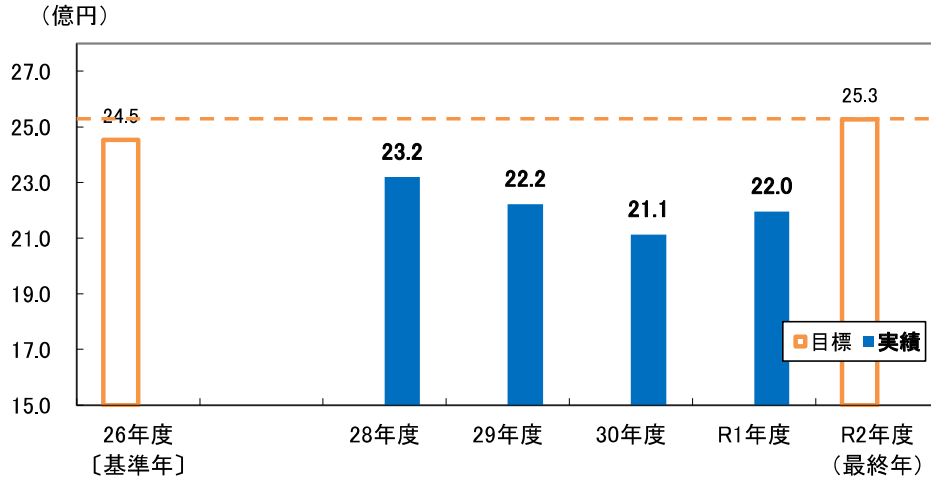


エコショッピング制度の参加人数は2,195人で基準年より減少した。

(10) 収益力の向上

【指標(10) 附帯事業収入の増加】

平成32年度までに、平成26年度から3%増加させる

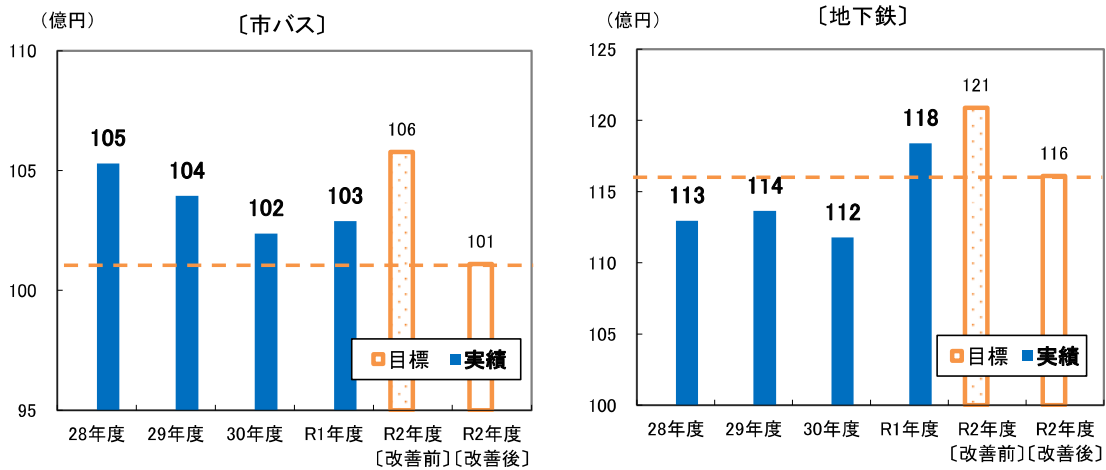


附帯事業収入は22.0億円で基準年より減少した。

(11) 経営の効率化

【指標(11) 運行経費の削減】

平成32年度までに、市バス・地下鉄それぞれで、改善前見込みから5億円改善させる



バスの運行経費は103億円で前年度比で微増、地下鉄の運行経費は118億円となり、前年度比で5%の増加となった。

(3) 令和元年度の主な取り組み状況

1	安全でお客様に信頼される公共交通を目指す	(1) 安全性の強化	<ul style="list-style-type: none"> ● 西神・山手線への新造車両導入(7編成) ● 運輸安全マネジメントに基づく内部監査の実施
		(2) 利便性の向上	<ul style="list-style-type: none"> ● バスロケーションシステムGTFS化に向けた検討 ● 長田駅サインの4か国語化
		(3) 快適性の向上	● バス停上屋3か所、ベンチ20か所設置
		(4) お客様のニーズに応じた取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ● ICカード利用データ等を用いた乗客者数の分析 ● 市バス均一区間2タッチ方式化に向けたシステム更新業務開始
		(5) 質の高いサービスの提供	<ul style="list-style-type: none"> ● お客様満足度調査(R01.12~R02.1) ● 現場職員を主な対象とした外国語(英語・中国語)研修を実施 ● 三宮・花時計前駅、ハーバーランド駅にタブレット端末を利用したクラウド通訳の導入
2	公共交通として神戸のまちづくりや地域社会に貢献する	(6) 総合交通体系における取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ● 地下鉄海岸線中学生以下無料化社会実験の継続 ● U-15定期券の販売継続 ● 地下鉄通学定期券の割引率見直し ● 山陽バスとの共用区および市内山陽バス単独区間の同伴幼児無料人数の拡大 ● 「神戸市地域公共交通活性化協議会」(事務局・都市局)等に参画
		(7) 人にやさしい公共交通	<ul style="list-style-type: none"> ● 西神・山手線三宮駅東西連絡通路設置工事開始 ● 西神・山手線新神戸駅改札内下りエスカレーター設置工事開始 ● バス停の点字ブロック整備 ● 市バスの乗務員研修や添乗調査の実施 ● 西神・山手線への新造車両導入(再掲)
		(8) 環境にやさしい公共交通	<ul style="list-style-type: none"> ● 駅舎照明(みなと元町駅)のLED化 ● ソーラー照明柱1か所設置 ● クリーンディーゼルバス等環境にやさしいバスによる運行の継続
		(9) 地域との協働	<ul style="list-style-type: none"> ● 交通局沿線NAVIやSNSを活用した沿線地域のイベント等の情報発信 ● 地下鉄沿線の幼稚園・保育所との連携(「たなばた列車」の運行) ● スポーツチーム(ヴィッセル神戸、神戸製鋼コベルコスティーラーズ)と連携したエコショッピングの実施
3	「市民の足」であり続けるために、経営基盤を強化する	(10) 収益力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ● イベント等の実施、集客イベント等ニーズに対応した臨時便の運行 ・光る絵本列車の運行 ・おもちゃ箱列車イベントの実施 ・市バス周遊コースの企画(「八社めぐり」、「恋愛パワースポットめぐり」等)の継続 ・ノエビアスタジアム神戸利用促進事業の実施 ・ヴィッセル神戸の試合時の臨時便の運行など ● 駅ナカビジネスの推進、広告事業の拡大 ・三宮駅デジタルサイネージ広告販売開始 ● イオンモール神戸南との連携 ・交通系ICカードを利用したポイント制度の運用 ● 交通局所有の資産の有効活用 ・西区室谷土地有償移管 ・長田区南駒栄町、北区有野台の土地賃貸
		(11) 経営の効率化	<ul style="list-style-type: none"> ● 人件費の抑制 ・交通局採用職員の給与体系の見直し ・市バス営業所管理委託、地下鉄駅務業務委託の継続 ・市バス路線の一部委託 ● 需要に応じた路線・ダイヤの見直し ・新設 : 89系統(妙法寺駅前~多井畑東町~妙法寺駅前) ・増便 : 59系統(垂水駅~舞子駅前)等 ・学校等への直行便の運行(16系統等)
		(12) 公営交通のあるべき姿を目指して	● 「神戸市地域公共交通活性化協議会」(事務局・住宅都市局)等に参画(再掲)

V 参考資料

バス路線別収支の状況

市バスは、1日約 18 万人のお客様にご利用いただいております。「市民の足」としての役割を果たしている。しかし、市バス路線の中には、採算をとることが難しい路線もあり、これらの路線を維持していくためには、より多くのお客様にご利用いただく必要がある。

そこで交通局では、市民の皆様にも市バスの現状を知っていただくため、市バスの路線別の経営状況を公表している。

(1) 路線別経営状況の指標

①営業係数

100 円の収入を得るために、費用がどれだけかかっているかを示す数値。この数値が小さいほど営業効率がよい（採算がとれている）ことになる。例えば、「営業係数 150」は、100 円の収入を得るために 150 円の費用がかかっていることを示す。

②収支差

バス車内に搭載している料金箱から得られたデータや市バス交通調査結果等から推計した路線別の乗車料収入等から、運行計画に基づき算定した系統別走行キロおよび乗務時分等の比率により推計した経費を差し引いた額。

③乗車人数（1日あたり）

路線別の乗車料収入から推計した年間の乗車人数を、1日あたりに平均している。

④運行本数（1日あたり）

平日 1日あたりの運行本数を掲載している。

(2) 営業係数の状況

○営業係数

29 年度	30 年度	R1 年度	R2 年度（予算）
105	105	107	108

○路線別

29 年度（84 路線）	黒字 （24 路線）	赤字 （60 路線）
30 年度（85 路線）	黒字 （24 路線）	赤字 （61 路線）
R1 年度（87 路線）	黒字 （26 路線）	赤字 （61 路線）

※28 年度より灘南北を 102・103 系統に分割。

< 黒字路線 >

29 年度（24 路線）	2・11・16・19・36・50・51・53・54・55・56・58・59・64・70・73・75・76・77・78・83・92・125・171
30 年度（24 路線）	2・16・19・23・32・36・51・53・54・55・56・58・59・64・66・70・73・75・76・77・78・83・92・125
R1 年度（26 路線）	2・16・19・23・28・32・36・50・51・53・54・55・56・58・59・64・70・73・75・76・77・78・83・92・106・125

○令和元年度 路線別営業成績

系統	区 間		営業係数	収支差 (百万円)	乗車人数/日	運行本数/日	
2	阪 JR 急 六 甲 道	—	元 三 宮 町 1 社	92	69	17,530	366
3	吉 田 町 1	(循環)	名 倉 町	133	△ 88	5,448	120
4	神 戸 駅 前	(循環)	大 日 丘 住 宅 前	117	△ 56	6,723	97
5	新 長 田 駅 前	(循環)	妙 法 寺 ・ 草 町	129	△ 45	3,011	66
6	松 原 通 5	(循環)	兵 庫 駅 前	177	△ 19	497	20
7	市 民 福 祉 交 流 セ ン タ ー 前	—	神 戸 駅 前	109	△ 48	10,376	216
9	吉 田 町 1	—	神 戸 駅 前	119	△ 21	2,062	67
10	須 磨 水 族 園	(循環)	駒 ケ 林 町	439	△ 41	245	20
11	神 戸 駅 前	—	板 宿	104	△ 14	6,653	164
13	兵 庫 駅 前	(循環)	新 長 田 駅 前	164	△ 21	627	13
15	名 谷 駅 前	—	青 山 台	148	△ 19	810	33
16	阪 神 御 影	—	六 甲 ケ ー ブ ル 下	89	57	9,869	289
17	二 葉 町	—	し あ わ せ の 村	163	△ 59	1,863	55
18	三 宮 駅 タ ー ミ ナ ル 前	(摩 耶 ケ ー ブ ル 下)	J R 六 甲 道	129	△ 25	1,622	42
19	阪 神 御 影	(循環)	鴨 子 ケ 原	73	49	3,495	65
21	西 神 中 央 駅 前	(美 賀 多 台 3)	西 体 育 館	104	△ 2	828	48
22	西 神 中 央 駅 前	(循環) (春 日 台)	西 体 育 館 前 西 神 中 央 駅 前	104	△ 5	2,877	124
23	西 神 中 央 駅 前	(循環)	西 神 工 業 会 館	89	2	280	12
24	西 神 中 央 駅 前	(循環)	狩 場 台 5	123	△ 13	1,063	66
26	J R 六 甲 道 駅	(循環)	六 甲 ケ ー ブ ル 下	142	△ 9	417	13
28	西 神 中 央 駅 前	(循環) (樫 野 台)	西 体 育 館 前 西 神 中 央 駅 前	100	0	2,218	108
29	三 宮 駅 タ ー ミ ナ ル 前	(循環) (日 赤 病 院 前)	摩 耶 埠 頭	139	△ 34	1,681	58
30	J R 甲 南 山 手 (J R 本 山 駅 前)	—	深 江 浜 町	113	△ 2	361	22
31	J R 甲 南 山 手	—	渦 森 台	139	△ 33	1,625	85
32	J R 六 甲 道	(循環)	御 影 山 手	98	1	997	34
33	J R 甲 南 山 手	(循環)	阪 神 御 影 南 口	191	△ 19	361	13
34	魚 崎 車 庫 前 (魚 崎 浜 町)	—	J R 甲 南 山 手	173	△ 34	845	71
35	魚 崎 車 庫 前 (魚 崎 浜 町)	(循環)	阪 神 御 影 南 口	188	△ 35	753	33
36	阪 神 御 影	—	鶴 甲 団 地	75	121	9,270	240

○令和元年度 路線別営業成績

系統	区 間			営業係数	収支差 (百万円)	乗車人数/日	運行本数/日
37	J R 甲 南 山 手	(循環)	阪 急 御 影	202	△ 33	560	14
38	阪 神 御 影	—	渦 森 台	104	△ 8	3,513	139
39	阪 神 御 影	(循環) (往吉駅前)	鴨 子 ヶ 原	112	△ 8	1,320	27
40	神 戸 駅 前	(循環)	大 日 丘 住 宅 前	197	△ 27	561	12
41	西 神 南 駅 前	(循環)	サ イ エ ン ス ク パ ー	282	△ 18	186	28
43	サンシャインワー フ	(循環)	JR 本 山 駅 前	475	△ 23	102	17
45	魚 崎 車 庫 前	—	阪 神 御 影 南 口	764	△ 21	56	16
46	西 神 南 駅 前	(循環)	ハ イ テ ク パ ー	102	△ 2	1,948	64
47	西 神 南 駅 前	(循環)	井 吹 台 西 町	109	△ 3	710	38
50	朝 霧 駅 前	—	学 園 都 市 駅 前	99	1	1,188	38
51	舞 子 駅 前	—	県 商 前	93	5	1,283	49
52	舞 子 駅 前	—	朝 霧 駅 前	107	△ 3	770	31
53	舞 子 駅 前	— (学が丘)	学 園 都 市 駅 前	81	66	6,730	161
54	舞 子 駅 前	— (多聞台)	学 園 都 市 駅 前	90	20	3,987	103
55	朝 霧 駅 前	—	伊 川 谷 高 校 前	63	20	975	42
56	学 園 都 市 駅 前	(循環)	学 園 緑 が 丘	77	9	751	28
57	垂 水 東 口	(循環)	青 山 台	129	△ 4	202	6
58	朝 霧 駅 前	—	伊 川 谷 駅 前	79	10	974	27
59	垂 水 駅	—	舞 子 駅 前	77	8	571	20
64	三 宮 駅 ターミナル前	—	神 戸 北 町	90	88	8,583	258
65	神 戸 駅 前	—	ひ よ ど り 台	128	△ 46	3,312	109
66	貿 易 セ ン タ ー 前	—	し あ わ せ の 村	109	△ 20	2,345	85
70	名 谷 駅 前	—	白 川 台	76	35	3,001	173
71	須 磨 一 の 谷	—	北 須 磨 団 地	188	△ 17	398	22
72	須 磨 一 の 谷	(循環)	多 井 畑 厄 神	176	△ 37	901	36
73	名 谷 駅 前	—	妙 法 寺 駅 前	83	45	5,090	184
74	名 谷 駅 前	—	柏 台	166	△ 19	561	26
75	須 磨 一 の 谷	—	妙 法 寺 駅 前	87	44	6,512	169
76	名 谷 駅 前	(循環)	神 の 谷	61	61	3,028	102
77	名 谷 駅 前	(循環)	白 川 台 4	64	62	3,288	105

○令和元年度 路線別営業成績

系統	区 間			営業係数	収支差 (百万円)	乗車人数/日	運行本数/日
78	名 谷 駅 前	(循環)	南 落 合 4	96	2	1,171	70
79	名 谷 駅 前	—	東 白 川 台 東 白 川 北 通 り	107	△ 4	1,130	71
80	高 尾 台	(循環)	新 長 田 駅 前	434	△ 23	127	11
81	須 磨 一 の 谷	(循環)	新 長 田 駅 前	215	△ 62	1,115	49
83	名 谷 駅 前	(循環)	北 落 合 目 5 ・ 6 丁	94	2	772	20
84	名 谷 駅 前	(循環)	若 草 小 学 校 前	124	△ 4	276	10
87	妙 法 寺 駅 前	—	ひ よ ど り 台	167	△ 17	496	33
88	妙 法 寺 駅 前	(循環)	柏 台	141	△ 17	852	27
89	妙 法 寺 駅 前	(循環)	多 井 畑 東 町	418	△ 2	10	6
90	石 屋 川 車 庫 前	—	中 突 堤 中 央 夕 一 ミ ナ ル	220	△ 19	294	12
92	石 屋 川 石 屋 川 車 庫 前	—	元 町 1 三 宮 神 社	98	8	8,623	216
95	神 戸 駅 前	(循環)	新 開 地	313	△ 60	570	29
96	神 戸 駅 前	(循環)	七 宮 町	295	△ 57	601	25
100	J R 六 甲 道	(循環)	灘 の 浜 東	185	△ 21	458	11
101	三 宮 駅ターミナル前	(循環)	日 赤 病 院 前 第 五 突 堤	202	△ 18	308	20
102	J R 六 甲 道	(循環)	摩 耶 ケーブル下	306	△ 40	366	13
103	J R 六 甲 道	(循環)	将 軍 通	361	△ 12	96	6
106	JR 六 甲 道	—	六 甲 ケーブル下	99	0	335	14
110	神 戸 駅 前	— (板宿)	J R 鷹 取 駅	126	△ 12	915	24
111	箕 谷 駅 前	—	衝 原	565	△ 55	222	49
112	神 戸 駅 前	— (前池橋)	J R 鷹 取 駅	130	△ 14	889	20
120	名 谷 駅 前	—	し あ わ せ の 村	169	△ 34	854	42
121	学 園 都 市 駅 前	(循環)	西 部 障 害 者 センター	212	△ 4	64	3
125	妙 法 寺 駅 前	(循環)	若 草 町	87	5	691	28
161	学 園 都 市 駅 前	(循環)	小 東 台 西	137	△ 7	408	17
171	垂 水 駅	—	学 園 都 市 駅 前	104	△ 1	550	22
180	三 宮 駅ターミナル前	(急行)	六 甲 ケーブル下	407	△ 23	183	12
山25	三 宮 駅 前	—	森 林 植 物 園 前	157	△ 6	333	22
合計				107	△ 655	180,195	5,571

※運行本数は平日。ただし25系統は4～11月の土日祝のみ運行。

〔営業係数ベスト10〕

順位	系統	区 間	収益 (百万円)	費用 (百万円)	収支差 (百万円)	営業 係数	30年度 順位
1	76	名 谷 駅 前 (循環) 神 の 谷	158	97	61	61	1
2	55	朝 霧 駅 前 — 伊 川 谷 高 校 前	53	33	20	63	2
3	77	名 谷 駅 前 (循環) 白 川 台 4	169	108	62	64	3
4	19	阪 神 御 影 (循環) 鴨 子 ケ 原	178	130	49	73	6
5	36	阪 神 御 影 — 鶴 甲 団 地	478	356	121	75	5
6	70	名 谷 駅 前 — 白 川 台	145	110	35	76	7
7	56	学 園 都 市 駅 前 (循環) 学 園 緑 が 丘	38	29	9	77	9
8	59	垂 水 駅 — 舞 子 駅 前	35	27	8	77	4
9	58	朝 霧 駅 前 — 伊 川 谷 駅 前	50	40	10	79	8
10	53	舞 子 駅 前 (ひがし) 学 園 都 市 駅 前	344	278	66	81	12

〔営業収支ベスト10〕

順位	系統	区 間	収益 (百万円)	費用 (百万円)	営業 係数	収支差 (百万円)	30年度 順位
1	36	阪 神 御 影 — 鶴 甲 団 地	478	356	75	121	1
2	64	三 宮 駅 ターミナル 前 — 神 戸 北 町	893	805	90	88	2
3	2	阪 急 六 甲 — 元 町 三 宮 神 社	894	825	92	69	3
4	53	舞 子 駅 前 (ひがし) 学 園 都 市 駅 前	344	278	81	66	7
5	77	名 谷 駅 前 (循環) 白 川 台 4	169	108	64	62	5
6	76	名 谷 駅 前 (循環) 神 の 谷	158	97	61	61	6
7	16	阪 神 御 影 — 六 甲 ケーブル 下	516	459	89	57	4
8	19	阪 神 御 影 (循環) 鴨 子 ケ 原	178	130	73	49	10
9	73	名 谷 駅 前 — 妙 法 寺 駅 前	260	215	83	45	8
10	75	須 磨 一 の 谷 — 妙 法 寺 駅 前	329	285	87	44	9

〔営業係数ワースト10〕

順位	系統	区 間	収益 (百万円)	費用 (百万円)	収支差 (百万円)	営業 係数	30年度 順位
1	45	魚 崎 車 庫 前 — 阪 神 御 影 南 口	3	24	▲21	764	1
2	111	箕 谷 駅 前 — 衛 原	12	66	▲55	565	2
3	43	サンシャインワー (循環) JR 本 山 駅 前 フ	6	29	▲23	475	3
4	10	須 磨 水 族 園 (循環) 駒 ケ 林 町	12	54	▲41	439	5
5	80	高 尾 台 (循環) 新 長 田 駅 前	7	30	▲23	434	4
6	89	妙 法 寺 駅 前 (循環) 多 井 畑 東 町	1	3	▲2	418	-
7	180	三 宮 駅 ターミナル 前 (急行) 六 甲 ケーブル 下	8	31	▲23	407	-
8	103	J R 六 甲 道 (循環) 特 車 通	5	17	▲12	361	6
9	95	神 戸 駅 前 (循環) 新 開 地	28	89	▲60	313	8
10	102	J R 六 甲 道 (循環) 摩 耶 ケーブル 下	19	59	▲40	306	10

〔営業収支ワースト10〕

順位	系統	区 間	収益 (百万円)	費用 (百万円)	営業 係数	収支差 (百万円)	30年度 順位
1	3	吉 田 町 1 (循環) 名 倉 町	265	353	133	▲88	1
2	81	須 磨 一 の 谷 (循環) 新 長 田 駅 前	54	116	215	▲62	2
3	95	神 戸 駅 前 (循環) 新 開 地	28	89	313	▲60	4
4	17	二 葉 町 — しあわせの村	95	154	163	▲59	3
5	96	神 戸 駅 前 (循環) 七 宮 町	29	86	295	▲57	5
6	4	神 戸 駅 前 (循環) 大 日 丘 住 宅 前	322	379	117	▲56	8
7	111	箕 谷 駅 前 — 衛 原	12	66	565	▲55	6
8	7	市 民 福 祉 交 流 セ ン ター 前 — 神 戸 駅 前	521	569	109	▲48	9
9	65	神 戸 駅 前 — ひよどり台	164	211	128	▲46	7
10	5	新 長 田 駅 前 (循環) 妙 法 寺 ・ 若 草 町	154	198	129	▲45	10

乗客数の推移

(単位:人、%)

	バス		地下鉄		
	1日当たり 乗客数	対前年度 増減率(%)	1日当たり 乗客数		対前年度 増減率(%)
13 年度	246,802	△6.0	西神・山手	275,975	9.4
			海岸	34,446	皆増
14 年度	237,521	△3.8	西神・山手	273,560	△0.9
			海岸	36,500	6.0
15 年度	232,207	△2.2	西神・山手	268,380	△1.9
			海岸	38,548	5.6
16 年度	227,795	△1.9	西神・山手	263,663	△1.8
			海岸	38,767	0.6
17 年度	216,027	△5.2	西神・山手	264,097	0.2
			海岸	39,004	0.6
18 年度	225,481	4.4	西神・山手	266,312	0.8
			海岸	40,174	3.0
19 年度	225,252	△0.1	西神・山手	267,257	0.4
			海岸	40,262	0.2
20 年度	211,176	△6.2	西神・山手	267,787	0.2
			海岸	41,660	3.5
21 年度	198,540	△6.0	西神・山手	261,606	△2.3
			海岸	42,652	2.4
22 年度	194,608	△2.0	西神・山手	261,587	△0.0
			海岸	42,670	0.0
23 年度	192,034	△1.3	西神・山手	259,293	△0.9
			海岸	42,396	△0.6
24 年度	191,850	△0.1	西神・山手	260,740	0.6
			海岸	42,894	1.2
25 年度	189,337	△1.3	西神・山手	260,737	△0.0
			海岸	43,016	0.3
26 年度	189,286	△0.1	西神・山手	259,863	△0.3
			海岸	43,520	1.2
27 年度	189,564	0.1	西神・山手	262,329	0.9
			海岸	44,456	2.2
28 年度	187,255	△1.2	西神・山手	261,495	0.6
			海岸	45,451	4.4
29 年度	186,763	△0.3	西神・山手	263,576	0.8
			海岸	48,643	7.0
30 年度	183,230	△1.9	西神・山手	263,381	△0.1
			海岸	50,236	3.3
(決算) 元 年度	180,194	△1.7	西神・山手	260,567	△1.1
			海岸	51,352	2.2
(予算) 2 年度	178,916	△0.7	西神・山手	272,692	4.7
			海岸	52,242	1.7

※バスの1日当たり乗客数のピークは昭和46年度で、398,665人である。

決算状況の推移(10年間)

(単位：百万円)

年 度		22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
自動車	営業損益	△1,349	△975	△735	△1,288	△928
	経常損益	146	151	317	△337	△240
	純損益	146	151	207	△28	△3,834
	累積損益	500	643	842	814	542
高速	累積資金過不足	△1,088	△883	△652	△794	△1,197
	営業損益	1,551	1,700	1,841	2,696	394
	西神・山手	5,750	5,844	5,948	6,721	5,895
	海岸	△4,199	△4,144	△4,107	△4,025	△5,501
鉄道	経常損益	△631	△778	△712	163	813
	西神・山手	5,433	5,247	5,280	6,014	5,686
	海岸	△6,064	△6,025	△5,992	△5,851	△4,873
	純損益	△631	△778	△712	182	△5,129
高速	西神・山手	5,433	5,247	5,280	6,033	1,102
	海岸	△6,064	△6,025	△5,992	△5,851	△6,231
	累積損益	△121,597	△122,375	△123,087	△122,905	△82,592
	西神・山手	△44,631	△39,384	△34,104	△28,071	413
鉄道	海岸	△76,966	△82,991	△88,983	△94,834	△83,005
	累積資金過不足	△8,968	△8,883	△8,791	△6,918	△4,862
	西神・山手	△3,313	△1,016	1,642	8,463	14,230
	海岸	△5,655	△7,867	△10,433	△15,381	△19,092

年 度		27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
自動車	営業損益	△406	△727	△541	△476	△655
	経常損益	89	△301	△209	△27	△156
	純損益	284	△301	△135	△27	△107
	累積損益	826	525	390	363	256
高速	累積資金過不足	△1,610	△1,608	△1,714	△1,824	△1,718
	営業損益	1,373	694	779	1,488	644
	西神・山手	6,503	5,722	5,438	5,816	4,629
	海岸	△5,130	△5,028	△4,659	△4,328	△3,985
鉄道	経常損益	2,176	1,768	1,682	2,257	1,505
	西神・山手	6,748	6,243	5,966	6,029	4,878
	海岸	△4,572	△4,475	△4,284	△3,772	△3,373
	純損益	2,176	1,764	1,682	2,257	1,505
高速	西神・山手	6,748	6,243	5,966	6,029	4,878
	海岸	△4,572	△4,479	△4,284	△3,772	△3,373
	累積損益	△80,416	△78,652	△76,970	△74,713	△73,208
	西神・山手	7,161	13,404	19,370	25,399	30,277
鉄道	海岸	△87,577	△92,056	△96,340	△100,112	△103,485
	累積資金過不足	△1,891	△6	1,729	4,654	7,345
	西神・山手	21,107	28,346	35,287	43,168	51,047
	海岸	△22,998	△28,352	△33,558	△38,514	△43,702

(バス)

- 過去の累積欠損金のピークは、昭和55年度の△17,744百万円。平成10年度に△18,168百万円となって以降、更新していたが、平成19年度に交通事業基金32,800百万円を取り崩し資本剰余金として受け入れ、平成20年度にそのうちの30,665百万円を取り崩し欠損金に充て、累積欠損金の解消を図った。
- 減債積立金について、平成21年度に11百万円、平成22年度に8百万円、平成23年度に8百万円を積み立てた。
- 近年の黒字決算は、昭和56年度～平成2年度(735百万円)及び平成4年度(358百万円)。その後平成18年度に黒字転換し、平成24年度まで黒字であったが、平成25年度は8年ぶりの赤字となった。
- 26年度は会計制度の見直しがあり、退職給付引当金等による特別損失を3,894百万円計上している結果、繰越欠損金が発生している。
- 27年度は3年ぶりの黒字。累積資金不足は拡大した。
- 28年度は301百万円、29年度は135百万円、30年度は27百万円、元年度は107百万円の純損失となり4年連続の赤字を計上。(地下鉄)
- 西神・山手線では開業の翌年度(昭和52年度)以降、経常損益、純損益とも赤字であったが、平成15年度に黒字転換した。
- 海岸線では開業年度(平成13年度)以降、経常損益、純損益とも赤字である。
- 全線では西神・山手線の開業の翌年度(昭和52年度)以降、経常損益、純損益とも赤字であった。
- 営業損益は、平成2年度に黒字転換したが、海岸線の開業に伴い平成13年度に赤字転換した。その後、海岸線の減価償却の進行に伴い、平成18年度に再び黒字転換した。
- 平成15年度に資本剰余金33,532百万円を取り崩し欠損金に充てた(西神・山手線)。
- 平成25年度に両線開業以来初めて、全線で経常損益及び純損益が黒字となった。
- 平成26年度は会計制度見直しに伴う特別損失計上(西神・山手4,584百万円、海岸1,358百万円)のため、純損失を計上。また、資本剰余金45,442百万円を取り崩し、欠損金に充てた。(西神・山手27,382百万円、海岸18,060百万円)
- 平成27年度は経常損益、純損益ともに、過去最高益を計上。(昭和51年度の西神・山手線開業年度を除く)
- 平成28・29年度は純損益について前年度よりも悪化したものの引き続き黒字を計上。
- 平成30年度は経常損益、純損益ともに、27年度の過去最高益を更新。(昭和51年度の西神・山手線開業年度を除く)
- 令和元年度は経常損益、純損益について前年度よりも悪化したものの引き続き黒字を計上。

一般会計からの繰入金の状況

○ 自動車事業会計

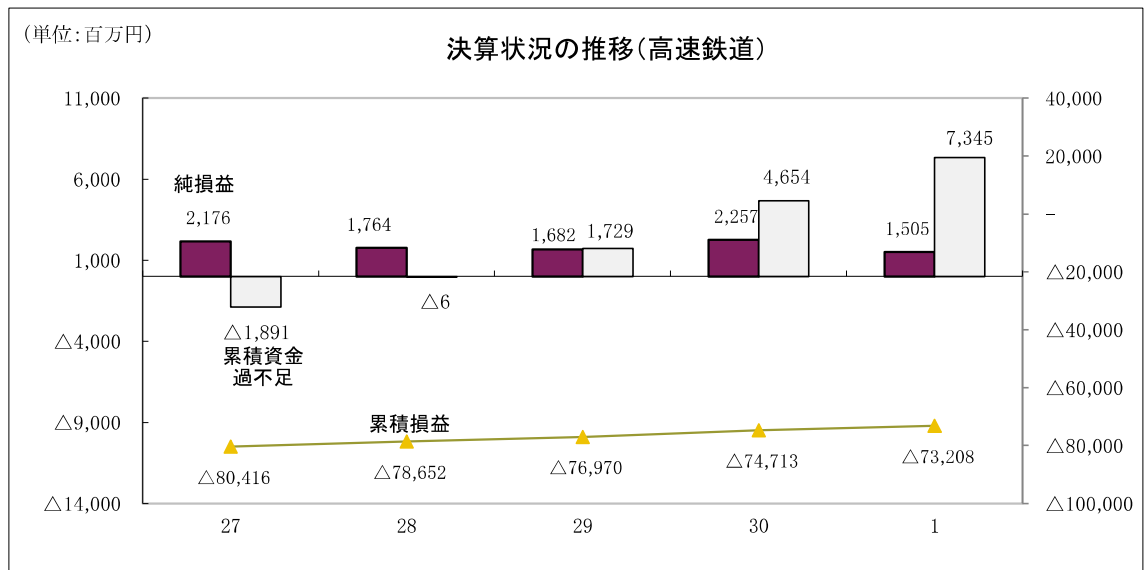
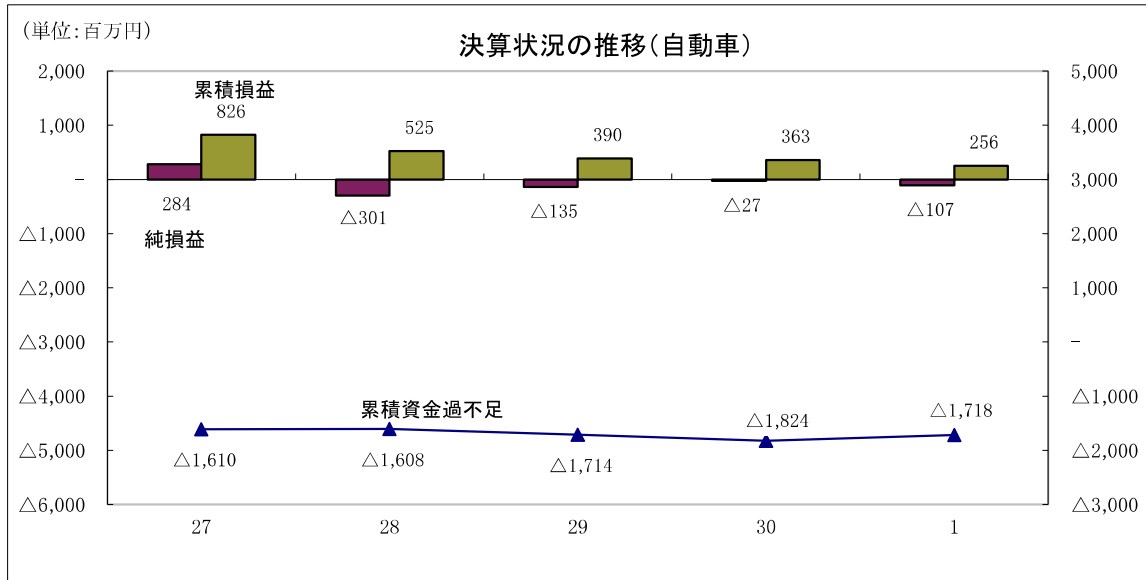
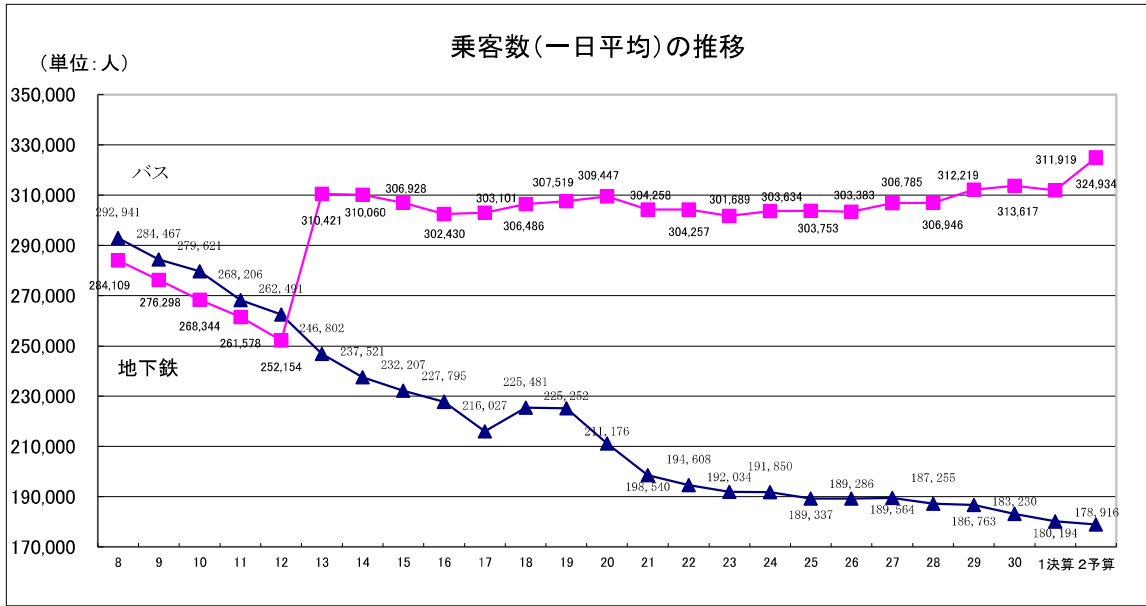
(単位:百万円)

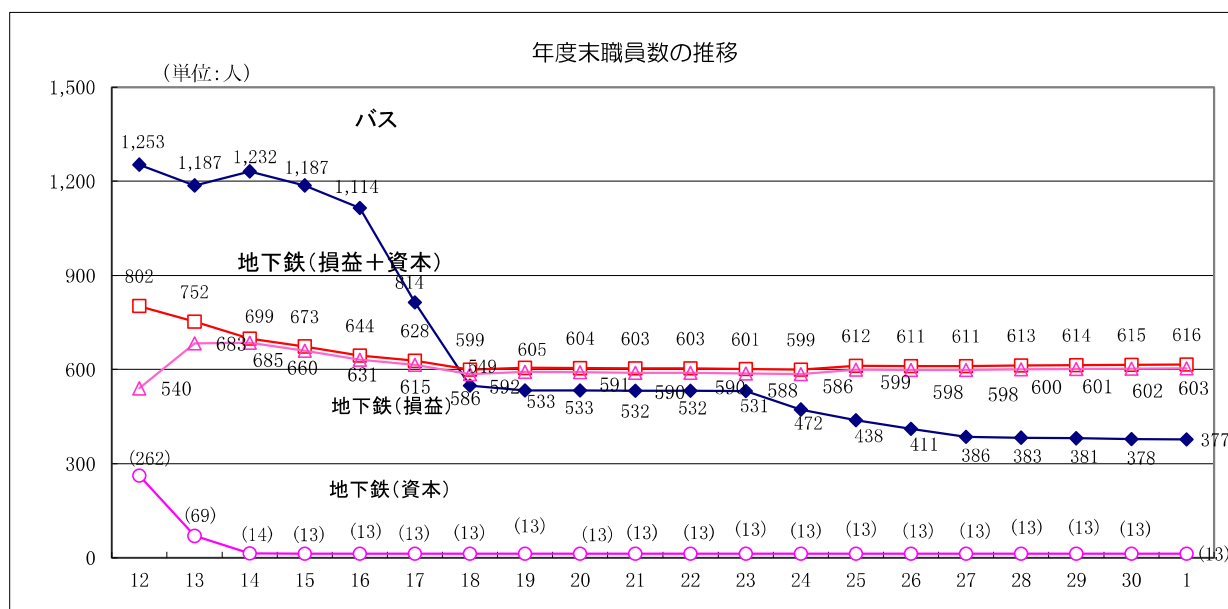
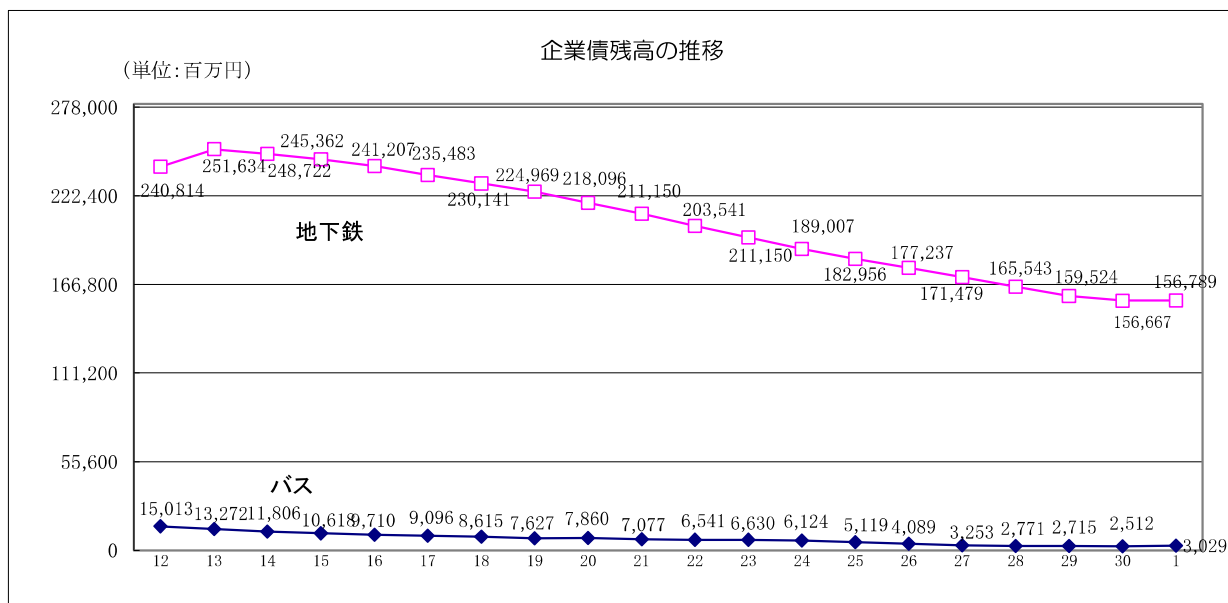
	充当項目	令和元年度	平成30年度	増△減
収益的 収入	基礎年金拠出金に係る公的負担等	160	169	△9
	経営改善促進補助金	416	370	46
	計	576	539	37
合計		576	539	37

○ 高速鉄道事業会計

(単位:百万円)

	充当項目	令和元年度	平成30年度	増△減
収益的 収入	基礎年金拠出金に係る公的負担等	225	227	△ 2
	企業債の利払い等	1,097	1,119	△ 22
	計	1,322	1,346	△ 24
資本的 収入	出資金	2,451	1,153	1,298
	企業債の元金償還等	2,746	2,595	151
	計	5,197	3,748	1,449
合計		6,519	5,094	1,425





VI 令和元年度決算に基づく資金不足比率の報告について（交通局関係分）

地方公共団体の財政の健全化に関する法律第22条第1項の規定により，令和元年度決算に基づく資金不足比率を次のとおり報告する。

企業会計の名称	資金不足比率（％）
自動車事業会計	17.5％
高速鉄道事業会計	—

本市に適用される経営健全化基準：20.0％

